

日胆地域における交流人口増加に伴う

経済波及効果調査 報告書

平成27年3月
株式会社北洋銀行
北海道胆振総合振興局
北海道日高振興局

目次

調査の趣旨	1
1. 日胆地域の現状特性の把握	2
(1) 日胆地域の概況	2
(2) 日胆地域の主な観光資源	3
(3) 日胆地域におけるまちづくりや各種取組の状況	12
2. 日胆地域における観光振興の現状と課題の把握	15
(1) 観光入込の状況	15
(2) 日胆地域の観光振興に関する課題	19
3. 日胆地域における今後の観光振興のあり方に係る方策	23
(1) 観光客を増加させる	24
(2) 滞在時間（日数）・消費金額を増やす	28
(3) 食材等の域内調達率を高める	36
(4) 観光客の動向に対応した戦略や受入体制	39
4. 日胆地域における交流人口増加に伴う経済波及効果の推計	41
(1) 交流人口増加に伴う経済波及効果の考え方	42
(2) 日胆地域における経済波及効果	47

調査の趣旨

平成 27 年度末までに予定されている新青森駅・新函館北斗駅間北海道新幹線開業を契機にして北海道がより注目されており、今後、道外から北海道を訪れる観光客やビジネス客の増加が期待されている。

胆振、日高地域は新幹線沿線ではないものの、新幹線開業の効果を最大限享受し、地域の経済活性化に資することを目的に、平成 25 年 10 月、管内の 18 市町や経済団体など官民が一体となった「北海道新幹線×nittan 地域戦略会議」を設立した。同会議では、「北海道を代表する地域ブランド化」を事業コンセプトに、nittan 地域の魅力を発信する「情報戦略」、観光資源を磨きながら新たな魅力を作り出す「観光戦略」、及び魅力を活かすための交通網の形成を目指す「交通戦略」を 3 本柱として、様々な事業に取り組んでいる。

日胆地域には、多くの自然資源や特徴的な景観、歴史的・文化的資源があり、世界ジオパークに認定されている「洞爺湖有珠山ジオパーク」や日本ジオパークに認定されている「アポイ岳ジオパーク」、ユネスコの無形文化遺産に登録された「アイヌ古式舞踊」、ユネスコの世界遺産登録を目指し、暫定一覧表に記載されている「北海道・北東北の縄文遺跡群」、馬産地日高ならではの体験プログラムなど特徴的な資源を活かしたイベントなどにも積極的に取り組んでいる。また、豊かな食資源を活かしたご当地グルメの開発やそれらを活かしたイベントも開催されており、こうした取り組みが地域に浸透し結実してくることで、交流人口のさらなる増加が期待される。

本調査は、こうした状況を踏まえ、日胆地域における特徴的な取組を把握しカテゴリーごとに整理するとともに、地域における交流人口の増加を図るための各取組みの有機的な連携や、新たな取組みの可能性など、今後の観光振興のあり方について検討を行うとともに、交流人口がある一定規模増加した際の経済波及効果の試算を行い、日胆地域での今後の取組みや地域振興のあり方を協議する上での基礎資料として活用、各施策の推進に資することを目的として実施する。

1. 日胆地域の現状特性の把握

(1) 日胆地域の概況

日胆地域は、室蘭市・苫小牧市を中心とする胆振総合振興局と浦河町・新ひだか町を中心とする日高振興局からなる道央圏南部のエリアで、南は太平洋・噴火湾に面している。札幌市からの距離は、室蘭市が約 130 km、苫小牧市が約 70 km、浦河町が約 175 km、新ひだか町が約 133 km となっている。

日胆地域の主な観光地は、登別温泉・洞爺湖温泉の温泉地である。胆振地域は札幌・新千歳空港と函館を結ぶ J R や高速道路のルート上にあるため、団体観光客の利用も多い観光地となっている。一方、日高地域はこのルート上に無いことから、札幌圏を中心にした道内客が集客の中心となっている。

平成 27 年度末に予定されている北海道新幹線の新函館北斗開業により、函館方面の観光客増加が予想されており、日胆地域を訪れる観光客も増えると期待されている。その一方で、北海道新幹線の札幌延伸ルートからは外れていることから、将来の観光客確保に対する不安もある地域となっている。

図表 日胆地域の位置



(2) 日胆地域の主な観光資源

①自然環境

名称	場所	特徴など
イタンキ浜	室蘭市	全国でも数少ない鳴り砂海岸として知られている。
絵鞆岬	室蘭市	室蘭発祥の地。半島の突端にあるこの岬は、語源が「エンルム」(岬)。ここには先住民を慰霊する碑があり、船首を模した展望台からは有珠山、昭和新山、羊蹄山など360度のパノラマを楽しめる。
金屏風の断崖	室蘭市	絵鞆半島の最南端にあり、赤褐色を帯びた100m余りの断崖が金屏風のように見えることから呼ばれ、朝日が映えたと一層金色に輝く。
銀屏風の断崖	室蘭市	アイヌ語で、チヌイエピラ(彫刻のある崖)といわれ、灰白色の断崖があたかも銀屏風を立てたように見え、夕日が映えたとより一層銀色に輝く。
測量山	室蘭市	道路建設の測量基点としたことに由来する。標高200mの山頂からは、室蘭港や町並、港口には白鳥大橋、遠くには有珠山、昭和新山、羊蹄山など、360度のパノラマを楽しめる。
大黒島	室蘭市	室蘭港の入口に浮かぶ周囲約700mの小さな島で、初夏には黒百合が咲く。
地球岬	室蘭市	アイヌ語の「ポロチップ」(親である断崖)から転訛して「地球岬」の文字が当てられた。高さ100m前後の断崖絶壁が約13km続く太平洋側は、地球岬に代表される風光明媚な景勝地が連なる。
ウトナイ湖	苫小牧市	周囲17km、面積230ha、水深0.6mの海跡湖。「小さな川の流が集まるところ」という語源を持つこの湖には、美々川などが清流を注ぎ、湖の周辺には、原野や湿原が広がり、豊かな自然が残されていて、水鳥たちの楽園となり、湿原動植物の宝庫となっている。昭和56年5月、日本野鳥の会は、ウトナイ湖と周辺の湿原約510haを自然保護とその普及・啓蒙を目的として、日本で初めての野鳥生物の聖域「サンクチュアリ」に指定した。平成3年にはラムサール条約の登録湿地となっている。
樽前山	苫小牧市	樽前山は、山頂に北海道の天然記念物に指定されている溶岩円頂丘(ドーム)を抱く標高1,041mの那須火山帯に属する活火山。
樽前ガロー	苫小牧市	市の自然環境保全地区に昭和54年に指定されている樽前山ろくろの林間にある。樽前山の噴火でできた溶結凝灰石を、下に流れる樽前川の清流が長い時間をかけて侵食して形成されたものである。
北大演習林	苫小牧市	明治37年に北海道大学農学部の演習林として創設され、市街地に近い緑のオアシスとして開放されている。エゾマツやミズナラなどの針葉樹がつくる深い森には、クマガラやヤマセミ、清流がつくる池にはマガモなどの野鳥が多数生息し、バードウォッチングには最適の森。
クッタラ湖	登別市	手つかずの原生林に囲まれた、神秘的なカルデラ湖。深さ147mもあり、透明度は日本で2番目。
登別原生林	登別市	天然記念物、185.86ha。温泉地帯であり、また海に近いことから暖地性の植物が豊富で、ミズナラ・イタヤ・カエデなど樹木60種、草木類約110種が知られている。
橘湖	登別市	森林に包まれた周囲1.5kmの小さな湖で、秘境の地の雰囲気を漂わせている。
桜並木	登別市	花のトンネルで親しまれている2000本の桜並木。
大湯沼・奥の湯	登別市	周囲約1km、熱湯をたたえた沼。温度は表面で40～50度、湯底では130度にもなる。
地獄谷	登別市	長径450mの巨大な爆裂火口跡。赤茶けた火口壁やいくつもの噴気孔が見られる。
有珠山	伊達市 洞爺湖町	標高737メートルの活火山・有珠山。2000年に噴火。現在も噴煙を上げ続ける。
有珠湾	伊達市 など	リアス式海岸の天然の良港で古くから多くの恵みを人々に与えてきた。ホタテ、アワビ、ワカメ、コンブなどの養殖が盛ん。オオハクチョウ100羽以上がこの湾で越冬する。
三階滝	伊達市	三段の層をなして落ち込む滝は、壮観な溪流美を楽しめる。
長流川・白絹の床	伊達市	清流の中をニジマスが涼しげに泳ぐ長流川は、四季の彩りを水面に映し街へと続いている。中でも「白絹の床」では、澄んだ水が川床の緑色凝灰岩の上を滑るように流れ、自然との美しい調和を創り出している。

名称	場所	特徴など
ボンベツの滝	豊浦町	落差 24mの瀑布の音に目をやると、白糸のように流れ落ちる美しい滝
ソウベツ川の滝	洞爺湖町	1999年の調査で約 20 メートルの落差をもつ 4 つの滝と、ほかにも 20 の滝が見つかっている。
洞爺湖	洞爺湖町 壮瞥町	湖面海拔 84m、最大深度 480m、面積 70.7 平方メートル、南岸に有珠、昭和新山の二火山を持つ。中央の島には鹿も生息。
昭和新山	壮瞥町	昭和 18 年に噴出。噴火の初めから終りまで記録が残る 20 世紀で最も新しい火山の 1 つで、現在も噴気活動が見られる。標高 398m。国指定の特別天然記念物。火山そのものを個人が所有するという世界的に稀な火山。
ギムンドの滝	壮瞥町	義経も訪れたという伝説の滝。仲洞爺キャンプ場より徒歩 20 分。
壮瞥滝	壮瞥町	洞爺湖唯一の流出口で湖畔から約 70 メートルの所にあり、約 18 メートルの高さ。アイヌ語でソウは滝、ベツは川という意味。
インクラの滝	白老町	四季折々に表情を変え、気迫に満ちた飛瀑。別々川の支流、西別々川にかかっていることから、別々の滝とも呼ばれている。
ポロト湖	白老町	ポロト湖では、春には水芭蕉や白老エンレイソウが咲き競い、そして冬には、天然のスケート場としてまた、ワカサギ釣りも楽しめる自然豊かな湖。
ホロホロ山	白老町	標高 1,322m で胆振管内最高峰の山。洞爺湖・支笏湖をはじめ、羊蹄山や恵庭岳、札幌周辺の山々まで望むことができる。
ときわ公園	安平町	緑豊かな「ときわ公園」は、キャンプ場やパークゴルフ場、散策路など自然を満喫しながら家族連れで楽しめる。
鹿公園	安平町	明治 35 年に指定を受けた日本最古の保健保安林に包まれた広い公園である。夏になると幻想的な光を放つホテルが飛び交うホテル池を中心に、エゾ鹿牧場や自然を満喫できる遊歩道や、キャンプ場、野外ステージやイベント広場がある。
たんぼぼ河川緑地	むかわ町	日本一のたんぼぼ群生地
鵠川河口	むかわ町	河口部の干拓地には水鳥やシギなど鳥たちの楽園となる。海岸線には海浜植物が群生
福山オロロップ渓谷	むかわ町	鵠川の上流域に清流が山を刻み深い渓谷を作る。清流と深広混交の奥深い森が織り成す渓谷美で知られる
穂別ダム	むかわ町	全長 506 メートルの穂別大橋がかげられ、秀峰夕張岳などの雄大な山岳風景を遠望できる。
ペンケヌーシ岳	日高町	一本の沢を源流まで登り詰めると、そこには雪田湿原のお花畑がある。山稜まで登ると砂地あり岩場ありと変化に富んだ自然を楽しめる。
日高竜門	日高町	沙流川が突然曲折するところに、大岩壁を天に駆りたてたような日高竜門がある。数々の奇石が散在し特に紅葉時期の景観が素晴らしい。上流の岩内ダムはニジマス釣り場としても知られている。
芽生すずらん群生地	平取町	北海道の代表する花であるすずらんが、約 15ha の原野いっぱいに咲き誇る。最盛期である 6 月上旬には鑑賞会が開かれて多くの人で賑わいを見せる。
幌尻岳	平取町	日高山脈の最高峰(2,052m)北カールや七つ沼カールの展望がこの山の魅力。登山ルートは平取町ルートと新冠町ルートがあるが平取側が一般的。最低一泊が必要。
インドナップ岳	新冠町	アイヌ語ではアリの多い山と意味するそうだが、地元では熊の多い山として知られる。日高山脈の主脈から遠く離れた支脈稜線上の山で登山道があるのは新冠富士まで。
サラブレッド銀座通り	新冠町	ゆったり草を食べるサラブレッドを見ることができる絶好のポイント。
新冠泥火山	新冠町	北海道文化財天然記念物。この泥火山群は 1,000～2,500 年前に出来たものと推測されている。高江低地帯内に配列している八つの泥丘より出来ており現在は僅かにガス、泥土を噴出するものがあるだけで余り活動的ではないが日本では類のない大規模な泥火山である。
二十間道路桜並木	新ひだか町	新ひだか町田原から御園にかけての通称二十間道路は約 7km に及ぶ桜並木。エゾヤマザクラが道の両側をピンク色に染める姿は圧巻。「日本の道百選」「桜名所百選」に選定。
ペデカリ岳	新ひだか町	登山口からその姿を見ることができない。数多くの小ピークを登り降りしながら尾根筋を忠実に辿るルートは、日帰り登山の限界に近いコース。

名称	場所	特徴など
農林水産省新冠種畜牧場	新ひだか町	宮内省御料牧場の一部が昭和22年に農地解放され現在1,555haが農水省の管轄になりホルスタインの品種改良を行なっている。広い牧場に牛がのどかに草を食む風景は牧歌のまち静内を象徴している。
逢萊山	新ひだか町	シヤクナゲ紫ツツジなどの高山植物が頂上付近に自生し、数多くの伝説を残す奇石・怪石の山。くじらが化けたとゆう伝説もある。
ソガベツの滝	浦河町	西舎地区の奥にあるこの滝は木々に覆われた断崖を2段になって流れ落ちる。水墨画のような美しい景勝地。
西舎 桜並木	浦河町	三千本ものエゾヤマサクラが3kmにわたって続く雄大な桜並木。
神威岳	浦河町	登り始めから山容を見ることができ、コースの半分が沢歩き。初心者には分かりにくい箇所があるので登山ガイドが必要。
アポイ岳	様似町	日高山脈の最南端に位置する山で、海岸からわずか4kmの場所にそびえるために、濃い霧が日光を遮り気温を低下させ標高2,000m級の山と同じ環境を造りだし高山植物の宝庫となっている。
エンルム岬	様似町	様似漁港を包み込む様に外海に突き出しているエンルム岬。先端標高70mの小高い丘に登れば太平洋と様似の町並みが手に取るように見える。
親子岩	様似町	どこまでも広がる紺碧の太平洋に浮かぶ大小3つの岩。この美しい奇石・親子岩は父と母と子が寄り添うように並んでいる。夕日が映えた姿は絶景。
様似山道	様似町	寛政11年(1799)徳川幕府の命令により開発されたいにしへの街道が様似山道。全長7kmのこの山道は可憐な高山植物が花を咲かせ約5時間のトレッキングを楽しむことができる。
日高耶馬溪	様似町	気が遠くなるような長い歳月えをかけて、冬島の奇石穴石から幌満河口まで間約6kmの海岸線を侵食した絶景が日高耶馬溪。海岸から垂直に駆け上がる美しい崖の姿が大分県耶馬溪に似ていることからこの名称が付けられている。
楽古岳	様似町	ピラミッドの様な山容。上り詰めた時の十勝平野の姿も圧巻である。日高山脈の魅力を最も気軽に味わえる。
幌満ゴヨウマツ自生地	様似町	幌満川中流の右岸一帯に広がる区域で針葉・広葉混交林の中にゴヨウマツが群生している。樹齢150～200年内外のものがかなりある。
えりも岬	えりも町	北海道の背骨と呼ばれる日高山脈が標高を下げそのまま太平洋に沈んでいく壮大な大自然のドラマを実感できる。長年にわたり荒波にあらわれているにもかかわらず遠く岩礁地帯が2kmも続く光景は感動的。「風の館」では風速250mの風を体験できる。自然のままの、ゼニガタアザラシが見られる。
黄金道路	えりも町	えりも町庶野～広尾市街近くまで切り立った崖とトンネル、復道が続く海浜ルート。金が敷き詰められたかの様に多額の費用を費やしたことから「黄金道路」と呼ばれる。復道の合間からの美しい海岸線も魅力。
豊似湖	えりも町	猿留川沿いの林道を進むこと9km。うっそうとした原生林の中に、ハート型も湖面にエメラルド色の湖水をたたえた豊似湖がある。周辺には氷河期の生き残りであるナキウサギも生息。
庶野さくら公園	えりも町	庶野港を見下ろす高台の上に、数多くのエゾヤマザクラが植えられている公園。桜の開花時期は5月上旬から中旬。
悲恋沼	えりも町	百人浜の一石一字塔の傍らにある沼。ピリカメノコの悲しい伝説が伝えられている。周囲にはたくさんのお花や植物の群落が見られ空を写してひっそりとたたずむ姿は美しい乙女を彷彿させる。
百人浜	えりも町	襟裳岬から広尾町方向に向かう広く美しい砂浜「百人浜」はその美しさとはうらはらに、悲しい言い伝えが残されている。襟裳岬周辺海域で南部藩の大型船が遭難し多くの水死体が浜に打ち上げられたとゆうもの。その数が百人になったため百人浜と名付けられた。

②歴史・文化

名称	場所	特徴など
旧室蘭駅 (重要文化財)	室蘭市	資料館として活用
南部藩モロラン陣屋跡	室蘭市	安政2年南部藩が、幕府から箱館、恵山岬から幌別間での海岸の警備を命ぜられ現在の陣屋町に二重の土塁をめぐらし、出張陣屋を造った。いまなお杉の木の繁った壕跡、古井戸などがある。昭和9年文化財(国指定、史跡)に指定されており、昭和29年には南部陣屋碑が建立された。
遺跡	苫小牧市	苫小牧には、豊富な埋蔵文化財があり、貴重な遺構、遺物が数多く発掘されている。特に苫小牧東部工業地帯の柏原18遺跡からは、粘土で作られた人間や動物の形など115ヶ所が確認された。また美々川流域の丘陵には30ヶ所を超える遺跡があり、なかでも美沢1遺跡の周堤基からは漆塗りの櫛が見つかるなど、6000年前の生活を物語る貴重な資料となっている。
王子製紙軽便鉄道「山線」	苫小牧市	「山線」は、王子製紙が明治41年(1908年)に千歳発電所を建設する際、機材や物資を運ぶため苫小牧工場から支笏湖まで走らせていた軽便鉄道の通称。昭和26年(1951年)に惜しまれながら廃止された。現存する山線4号機関車は、山線の廃止後東京の「紙の博物館」に展示されていたが、平成8年(1996年)苫小牧市民の熱意により苫小牧に里帰りした。
円空作観音像	登別市	有形文化財。地獄谷展望丘の一角に社を設けて安置されている。
幌別鉱山の盛衰	登別市	明治39年(1906年)札幌五番館館主、小田良治が旭鉱を開いて以来金、銀、銅を産出、やがて主流は硫黄になるが、大正9年幌別鉱山は盛況となり戸数450戸人口1300有余人を数え従業員は480人にも達した。以来、幌別川に遡上した鮭鱒漁は終焉を迎えたという。大正から昭和の初めにかけて日本一の生産量を誇るも、昭和48年に閉山。
薬師如来堂	登別市	文久元年、火薬の原料として地獄谷から硫黄を採掘していた南部藩栃内氏の家臣善四郎の職人がお堂の下から湧いている温泉で目を洗ったところ眼病が治ったことから、そのお礼として寄進した石碑が安置されている。以来、湯治客からは目の湯として伝承されている。
ポロコタン	白老町	アイヌ民族の貴重な文化を当時の姿そのままに残そうと、ポロコ湖のほとりに復元されたコタン(村)
仙台藩白老元陣屋跡	白老町	開国時におけるロシア勢力の南下を懸念し、1856年幕府は仙台藩ほか奥羽諸藩に蝦夷地の警備を命じた。仙台藩の守備範囲は白老から国後・択捉島まで、蝦夷地の約3分の1。各地に出張陣屋を置き、白老の元陣屋はその警備の中核として君臨した。
SL資料館	安平町	鉄道に関する貴重な資料を収集・展示した鉄道資料館は、鉄道のまちとして発展した追分の観光スポットのひとつ。D51機関車1両と貴重なSLの部品を保存展示している。
義経神社	平取町	蝦夷地開拓に多大な功績を残した幕府の役人・近藤重蔵らに寄贈された源義経像が奉られている。隣接の義経公園は緑の多い憩いの場。神社横には義経資料館も併設されている。
判官館	新冠町	新冠河口にそびえ立つ、自慢の一台岩壁でおよそ800年の昔、九朗判官 源義経が兄頼朝の迫害から逃れて、蝦夷地に亡命しこの要害の地に館を築き身を休めたことと伝えられる。現在では町民の憩いの森として親しまれ林を縫うように山頂まで遊歩道が作られている。
シャクシャインの砦跡	新ひだか町	シャクシャインはアイヌの首長であり日高地方に君臨していた。寛文9年(1669)和人の暴行ぶりに抵抗の戦いを起こし対峙したが、松前藩の反撃にあい謀殺される。昭和53年に記念碑が建てられている。
龍雲閣	新ひだか町	明治42年に御料牧場の貴賓舎として建設。御殿造りの優雅な外観。伊藤博文の絶筆を所蔵。桜まつりの期間中のみ一般に開放している。
蝦夷三官寺 等樹院	様似町	幕府は江戸後期、蝦夷地入りした武士らを伴う寺院が必要になり蝦夷三官寺の建立を決定し文化3年(1806)に等樹院が完成。北海道近世史上重要な建築物である。
一石一字塔	えりも町	襟裳岬から庶野に向かう約10kmの砂浜が百人浜。その昔南部藩の船が遭難し砂浜に流れ着いた多数の乗組員が飢えと寒さで亡くなったという伝説があり、海難事故の多い襟裳岬に文化3年(1806年)村民たちがその霊を慰めるために一石一字の塔を建立した。

③観光資源

名称	場所	ジャンル	特徴など
イルカ・鯨 ウォッチング	室蘭市	見学	春から秋にかけて、多くのイルカが回遊する室蘭近海は、さらにミンククジラ、シャチ、オットセイといった海洋。ほ乳動物との出会いの確立が高い海域であり、1,000頭単位のイルカに遭遇したこともしばしばある。
工場見学	室蘭市	見学	新日鉄室蘭の棒鋼工場、日鋼室蘭の瑞泉閣、鍛刀所、旧発電所などの工場見学が好評である。
地球岬展望台	室蘭市	展望台	ユニークな建築で、訪れる人々の目を楽しませており、晴れた日には遠く駒ヶ岳、恵山岬や下北半島も眺望できる。イルカや鯨も姿を見せることもある。
水族館	室蘭市	水族館	46面の水槽及びパノラマ水槽があり、屋外遊戯施設にはメリーゴーランド・豆汽車・観覧車等がある。
工場夜景	室蘭市	体験	港町ならではの美しい明かりと工場群の夜景が最近注目されている。白鳥大橋のライトアップや、工場群の明かりなど、たくさんの光が室蘭の夜を演出。室蘭・川崎・四日市・北九州による「日本四大工場夜景エリア」を共同宣言。
ボルタ	室蘭市	体験	ボルトやナット、ワッシャーなどをハンドづけした、体長5センチメートルほどのボルト人形「ボルタ」。鉄のまち室蘭のアイドルとして、お土産などに人気。「ボルタ工房」では、ボルタの製作体験ができる。
ノーザンホース パーク	苫小牧市	乗馬	新千歳空港よりシャトルバスで約10分。初心者から上級者まで楽しめる乗馬施設をメインにしたくつろぎの空間。
博物館・埋蔵文化財調査センター	苫小牧市	博物館	アイヌ民族の住居を模して建てられた博物館は苫小牧の自然や歴史、文化を学ぶ場として、資料展示のほか、調査研究や保存をしたり、各種講座を開催するなど、郷土学習の拠点となっている。
丸山遠見	苫小牧市	展望台	360度の大自然のパノラマが楽しめる丸山遠見「望楼」。樽前山麓の中間部に位置する標高321mの小丘陵にあり、見晴し台の標高は334mと東京タワーの高さに匹敵。大鳥が羽根を広げたような女性的な美しい樹海の姿を堪能できる。森林を山火事から守るための見張り所として建てられたが、今では隠れた観光名所として人気を集めている。
苫小牧市科学センター	苫小牧市	センター	科学展示・プラネタリウム等の展示活動のほか一日科学センター・親子日曜教室・科学ふれあい教室等の各教室。
緑ヶ丘公園展望台	苫小牧市	展望台	平成10年に、とまこまい市制50周年を記念して建設された。高さ29.6mの展望台からは、緑ヶ丘高遠をはじめ、樽前山麓の広大な自然がおりなす四季のパノラマ風景と、たくましく発展する街並みや夜景が一望できる。
海の駅 ぶらっと 港町市場	苫小牧市		公設食品卸売りセンターを小売市場として開業。新鮮な生鮮品販売や食事処がある。
クマ牧場	登別市	牧場	200頭余りのヒグマを飼育する世界一のクマ牧場。
ユーカラの里	登別市	テーマ パーク	明治初期のアイヌの生活様式を伝統の手法で再現した学術的にも貴重な文化遺産で、アッシ織りや工芸の実演をはじめ先住民族の生活の知恵をつぶさに見ることができる。
登別マリンパーク スニクス	登別市	テーマ パーク	見所は、海洋美術館ニクス城。水上城郭をモデルに造られたニクス城の中では、寒流・暖流の二つのアクアトンネルから海底を散歩するように、魚群の姿を見ることができる。
登別伊達時代村	登別市	テーマ パーク	伊達藩が活躍した江戸時代を再現した芸能イベントランド。
黎明観『藍工房』	伊達市	体験	伊達産藍を原料とし、天然灰汁発酵建てによってできた藍液で、染色が楽しめる。約90人が一度に体験可能で、北海道内では最大規模のスペースを確保している。
大滝森林せせら ぎ館	伊達市	ギャラリー	国道276号線沿い「道の駅・フォーレスト276大滝」の左側に隣接。1本の丸太の直径約40cm、樹齢100年にも及ぶカナダ松材を使用した世界最大級を誇るログハウス。ギャラリー等に活用されている。
藍葉麗	伊達市	体験	国道453号に面し、徳瞬瞥山を見渡すことができる場所にある藍染め体験施設。

名称	場所	ジャンル	特徴など
西山山麓火口散策路	洞爺湖町	体験	2000年3月に噴火した火口を間近で見ることができる散策路。温泉街からも車で5分。散策は約1時間程で出来、地殻変動により盛り上がった地面や地熱、噴煙など、噴火の驚異を間近で感じることができる。
洞爺湖ビジターセンター・火山科学館	洞爺湖町	資料館	火山科学館では、1977年噴火、2000年3月の噴火を中心に、これまでいくたびか噴火を繰り返してきた有珠山の火山活動を映像や解説、体感装置などで紹介。洞爺湖ビジターセンターでは地域の自然と、その自然に親しむために必要な情報を展示。
観湖台	洞爺湖町	展望台	湖北部の丘の上、中島を中心に洞爺湖の湖面と湖畔の全容を一望にして来馬岳、鷲別岳、有珠山のパノラマが広がる
武四郎坂	洞爺湖町	展望台	松浦武四郎が絶賛した羊蹄山へ抜ける山道からの見晴らし。湖水と中島、有珠山の噴煙を駐車場から一望できる。
ポロトの森	白老町	釣り	バードウォッチング・ワカサギ釣り・マレクによるサケ漁・ヤマベのつかみ取り
アイヌ民族博物館	白老町	博物館	チセをかたどったユニークな建物が、アイヌ民族に関する専門の博物館である。多くの資料・文化財が展示されている。また、アイヌ文化の調査研究、世界各地の先住民族の交流の拠点ともなっている。
仙台藩白老元陣屋資料館	白老町	資料館	史蹟公園に隣接する資料館には、当時の元陣屋を再現したジオラマや絵図、蝦夷地の地図、武具など約300点の歴史的資料が展示され、仙台藩の元陣屋での12年の歴史を知ることができる。
社台スタリオンステーション	安平町	牧場	日本を代表するスタリオン。サンデーサイレンスをはじめとする一流種牡馬が繋用されている。見学場所からは、トウカイテイオーやパブルガムフェローを見学することができる。
ホッピー公園	むかわ町	公園	夜はライトアップされた噴水が幻想的な雰囲気を作り出す。
日高山岳ビラパーク	日高町	公園	日高高原荘の周辺に広がる緑いっぱいの公園。アウトドアスポーツ施設も充実。
日高山脈館	日高町	展示	周辺に生息する貴重な動・植物をパネルを使って紹介するほか、岩石や化石の標本も展示されており散策や登山についてのアドバイスを得られる。
北海道アウトドアアドベンチャーズ	日高町	体験	ロッククライミング、登山、トレッキング、マウンテンバイクなどインストラクターが丁寧に指導してくれる。
門別競馬場	日高町	競馬場	1周1,600mのコースは地方競馬の中でも大井競馬場と並ぶ最大規模。冬期でも暖房完備で快適な観覧席を持つ道営の競馬場。
沙流川歴史館	平取町	資料館	町内の遺跡から出土して遺物が展示されている。北海道の文化のみならず、本州や北方地域とのかかわりを知る上でも貴重な資料となっている。
二風谷ダム	平取町	ダム	厩舎をイメージさせる美しい外観。二風谷レイクサイドパークには沙流川歴史館がある。
二風谷アイヌ文化資料館	平取町	資料館	アイヌ民族のユウカラ(英雄叙情詩)や野外展示のチセ(家)を始め、衣装や猟具、生活用具など貴重な資料300種約2,000点を保存展示をする資料館。
義経神社	平取町	寺社	義経神社は源義経公を御祭神としており寛政11年(1799)近藤重蔵らが御神像を寄進し、この地に安置されたのが始まり。また、本社は自然環境にも恵まれ憩い場として、散策等も楽しめる。
にいかつぶホロシリ乗馬クラブ	新冠町	乗馬施設	太平洋を一望できる最高のロケーション。全長50km余りの林道に数コース設定されて好みに合わせてトレッキングが楽しめる。
レ・コード館	新冠町	資料館	全国から寄贈された50万枚を超える貴重なレコードが収蔵され、国内最大級のスピーカーシステムで視聴することができる。世界的にも貴重な蓄音機やロウ管レコードなども展示されている。展望タワーは360度のパノラマ。
真歌公園	新ひだか町	公園	アイヌの英雄シャクシャインが活躍した伝説の地。アイヌ民族文化を今に伝える資料を保存展示するシャクシャイン記念館がある。展望台から市街地を一望できる。
JRA日高育成総合施設	浦河町	牧場	105ヘクタールという広大なグラス馬場や屋内馬場など、国内初の専門設備が各種建設された東洋最大級の軽種場調教施設。世界最長(1km)の屋内直線馬場は圧巻。

名称	場所	ジャンル	特徴など
井寒台森林公園	浦河町	公園	68haもの広いハイキングコースが自慢。展望台から太平洋が一望できる。
浦河乗馬公園	浦河町	乗馬施設	平成4年にオープン。スポーツとしての乗馬を普及するため国体馬術競技会場跡に作られた公園。町民乗馬大会や馬術大会の他各種乗馬教室など幅広く活用されている。
翠明橋公園	浦河町	公園	国道 236 号線(天馬開道)沿いの翠明橋公園では日高山脈から湧水を飲むことができる。この水は純度が高い超軟水。
馬事資料館	浦河町	資料館	全国でも珍しい馬の資料館。32頭のサラブレッドを乗せた優駿の門がシンボル。馬に関する資料や世界の馬具などが展示されている。5冠馬シンザンの父ヒンドスタンの剥製は必見。
優駿ビレッジ「AERU」	浦河町	乗馬施設	日本最大級の乗馬施設。初心者でも気軽に散策することができるコースから上級者まで楽しめる乗馬トレッキング全 10 コースを用意している。温泉、宿泊施設も完備。
様似郷土資料館	様似町	資料館	太古の歴史を探ることのできる考古学的な資料や江戸時代から北海道開拓時代にかけての歴史的資料が保存展示されている。
襟裳岬風の館	えりも町	資料館	襟裳岬は風速 10mの風が吹く日が1年間に 290 日を超える。風の館は強風を有効利用しようとしたテーマ館。
郷土資料館 ほろいずみ	えりも町	資料館	開拓時代に先人達が使用していた農機具や生活用具が数多く展示されている。また併設されている水産資料館にはえりもの基幹産業として発展してきた水産のすべてが凝集されている。
しゃくなげ公園	えりも町	公園	えりも町市街の南、スポーツ公園の一角にある4万平方メートルもの広さがある公園。園内には固有種のエリモシヤクナゲが自生している他、ツツジなども約数百本が保護植栽されている。
灯台公園	えりも町	公園	明治 24 年に立てられた幌泉灯台が記念碑として残されている公園。夜にはライトアップされロマンチックなムードを漂わせる。

④地場産業・特産品

名称	場所	特徴など
室蘭やきとり	室蘭市	室蘭にはおよそ 200 軒の焼き鳥屋があるといわれている。人口あたりの軒数では全国有数の多さである。その特徴は、豚肉とタマネギを串に刺し、洋辛子を添えていることである。市では「やきとりのマチ」として全国的に宣伝を始めている。
カレーラーメン	室蘭市 苫小牧市	スパイシーでトロミある濃厚なカレースープと北海道特有のちぢれ麺にチャーシュー、野菜やワカメなどが絶妙なハーモニーを奏でる。北海道第4のラーメン。
ハスカップ製品	苫小牧市	勇払原野の厳しい自然条件の中で育った良質のハスカップを使い、果実の持ち味と風味を最大限に生かし造りあげた製品を取り揃えた。
苫小牧焼工房樽前窯陶芸館	苫小牧市	ハスカップの木を燃やした灰に若干の金属を調合し、赤紫のハスカップの実の色を表現した陶器はまさに芸術品。
ホッキ	苫小牧市	苫小牧市はホッキ貝の水揚げ日本一を誇る。マルトマ食堂のホッキカレーが地元グルメとして人気。
ディサ	伊達市	ディサは南アフリカに分布するランの仲間で、特異な花形、鮮やかな色彩から幻のランと言われている。日本国内においては、大滝村でのみ栽培されている。
あか毛和牛	洞爺湖町	洞爺湖町のあか牛は、土佐県育ちの和牛で、4 種類ほどあるあか毛の中でも非常に数が少なく、希少価値がある。肉質は脂がしつこくなく低カロリーで、健康ビーフと呼ばれている。
白老牛	白老町	昭和 29 年島根県から導入し、現在は全道でも有数の生産を誇る。成長に適した気候と優れた環境・飼育技術が全道に誇る味を生み出した。そのおいしさは松坂牛にも劣らないとの評価を得、昭和 50 年 10 月(社)全国和牛登録協会により「白老牛」の命名を受けている。
たらこ	白老町	活きの良いすけ宗の卵を甘塩で漬け込み、色も薄く塩も薄く吟味して造った虎杖浜ならではの逸品。
カマンベールチーズ	安平町	早来町は、昭和8年日本で初めてのチーズづくりが始められた「チーズ発祥の地」であり、以来営々としてチーズづくりが行われてきた。地場農産品コンクールで優秀賞を受賞したはやきたカマンベールチーズは、地元はやきたの新鮮な牛乳と熟練の技が造りあげた手づくりチーズの逸品。
雪だるま小包	安平町	早来郵便局が昭和 62 年にスタートさせた小包で早来町に降り積もる純白な新雪を発砲スチロールに詰め込んだ、本物の雪だるまである。以来はやきたの冬を形にした、ふるさとの小包として「雪だるま小包」は全国へ、さらに東南アジアや遠く中南米まで、幅広く送り出されている。
赤いひまわり	安平町	メキシコ、中南米原産の「チトニア」というのが正式名称。半耐寒性の一年草で、花びらは 10 センチ程度、表は赤、裏は黄色。一本の茎から、何十本もの花が咲くのが特徴で、太陽神のシンボル、古代 アステカ帝国の国花という言い伝えがある。
アイヌ民芸木彫り	平取町	豊かな森林資源に恵まれた平取町にはアイヌ民芸である伝統的に受け継がれている。店頭で実際にノミを握り、木彫りの実演を見せてくれる民芸店も多く観光客の人気を得ている。
黒毛和牛	平取町	平取特産の黒毛和牛は和牛のふるさととして名高い島根県より昭和 37 年に繁殖牛として導入し日高山脈の麓自然な環境で生産飼育されている良質な和牛。
日高三石こんぶ	新ひだか町	高品質を誇る三石産昆布。だし昆布として天下一品なだけでなく、昆布巻、佃煮などにも最適。ヨード、カルシウム、鉄分などがたっぷり含まれた、美容と健康に優れた健康食品。
蓬莱焼き	新ひだか町	素朴な持ち味が好評の蓬莱焼。コーヒーカップや湯のみ、花瓶など暮らし密着した温かみのある陶器。
サケ	えりも町	新巻日高メジカ系の銀ザケ。新巻鮭、筋子、いくら、昆布巻きなどに加工されている。

⑤温泉

名称	場所	成分	特徴など
カルルス温泉	登別市	芒硝性単純泉	神経痛・リュウマチ・皮膚病・関節リュウマチ・胃腸病・自律神経失調症・ノイローゼ・更年期障害・肩こり・婦人病・痔疾・皮膚及び外科疾患。登別温泉から北西約8kmにあり、閑静な湯治場の雰囲気を残す。
登別温泉	登別市	食塩泉・カルシウム泉・硫黄泉・ラジウム泉・鉄鉱泉	北海道を代表する温泉街。温泉街の北方には、地獄谷が噴煙を上げている。地獄谷と倶多楽湖や大湯沼など計7コースの遊歩道もあり、新緑・紅葉が見事。11種類の泉質を有するといわれており、高血圧・動脈硬化症・運動器障害・創傷・婦人病・慢性湿疹・リュウマチ性疾患・痛風及び尿酸素質・疲労回復・水虫・糖尿病・体質改善など数多くの効果がある。
しおさい天然豊浦温泉	豊浦町	硫酸泉塩	海と一体の空間構成をイメージし、施設から海を眺望できる温泉として建設。神経痛、冷え性
洞爺湖温泉	洞爺湖町	弱食塩泉	湯量豊富で知られる。旅館、土産物店の数では道内随一の観光地。湖水と周辺の山々は北海道三大景観のひとつ。腸病、慢性筋肉リュウマチに効く。
洞爺村温泉	洞爺湖町	ナトリウム－硫酸塩・塩化物泉	リュウマチ性疾患、動脈硬化症、高血圧症、創傷
北湯沢温泉	伊達市	硫化水素泉・単純硫化水素泉	長流川の河床から湧き出る。豊かな湯量と溪流に臨むロケーションが魅力。慢性関節リュウマチ性・慢性筋肉痛リュウマチ・神経痛・神経炎・慢性皮膚炎・糖尿病
蟠溪温泉	壮瞥町	食塩石膏硫化水素泉	長流川の溪流沿い、素朴な山あいの湯。オロフレ峠へ通じる道の眺めが素晴らしい。高血圧・リュウマチ・動脈硬化・湿疹・気管支炎・胃腸病
壮瞥温泉	壮瞥町	石膏食塩泉	洞爺湖温泉に隣接した静かで家庭的な林間の温泉地。外傷障害、神経痛、関節病
虎杖浜温泉	白老町	単純泉(緩和性低張高温泉)	神経痛・慢性関節リュウマチ・外傷性障害の後療法・疲労回復・冷え性・胃腸性・毛細血管開放による栄養素吸収促進・飲用・常習便秘・高血圧症・胆のう炎・胆道炎・糖尿病・痔疾・下腹部臓器の充血・胃腸病
鶴の湯温泉	安平町	冷泉含硫黄－ナトリウム－塩化物・炭酸水素塩泉	静かな環境、豊かな泉郷、四季折々の自然庭園、川のほとりに桜・エゾ松・トド松の林に囲まれた静閑な温泉は、明治4年に発見された道内で2番目に古い湯の里。2ヘクタールある池には道内でも珍しい「ハス」の花が一面に咲き誇る。
樹海温泉	むかわ町	カルシウムナトリウム塩化物泉	近くにはキャンプ場があり、センターハウスやバンガローなどキャンプには必要な設備が充実している。場内にはフィールドアスレチック場もありのびのびとアウトドアを満喫できる。神経痛・関節痛・きりきず・慢性皮膚病・動脈硬化症・高血圧症
沙流川温泉ひだか高原荘	日高町	含フッ素・単純硫黄冷鉱泉	豊かな自然に囲まれた山間の一軒宿。近くにお沙流川溪流があり景観も美しい。ヤマバ・ニジマス料理も人気。
とねっこの湯	日高町	塩化物泉	豊富な湯量が自慢の日帰り天然温泉。ナトリウム塩化物泉の大浴場をはじめ露天風呂のほかハーブやヨモギなど月代わりの薬湯や泡風呂サウナも完備、
平取温泉	平取町	塩化物強塩冷鉱泉	自然あふれる平取に心ゆくまで寛げる天然温泉。平成26年に新しい宿泊施設「ゆから」が誕生した。
新冠温泉「レ・コード」の湯	新冠町	ナトリウム塩化物泉	小高い丘の上に立ち、判官岬と太平洋望む雄大な景色が自慢。露天風呂からは漁り火や美しい夕日など四季折々の風情が楽しめる。
静内温泉	新ひだか町	含重曹・硫黄泉	リュウマチ・慢性湿疹・糖尿病・運動障害・やけどなどに効果がある。
三石温泉	新ひだか町	炭酸水素塩化物泉	国道235号線沿いの一軒宿の温泉で浴室からは太平洋を一望できる。湯冷めしづらいことでも有名。
アポイ山荘	様似町	長万部二股ラジウム温泉の湯の華	高山植物の宝庫として毎年多くの登山客でにぎわうアポイ岳の山麓にある温泉宿。日帰り入浴も可能で登山客やキャンパーのも人気。大浴場と露天風呂からは太平洋とアポイ岳が望め雄大な景色を楽しめる。

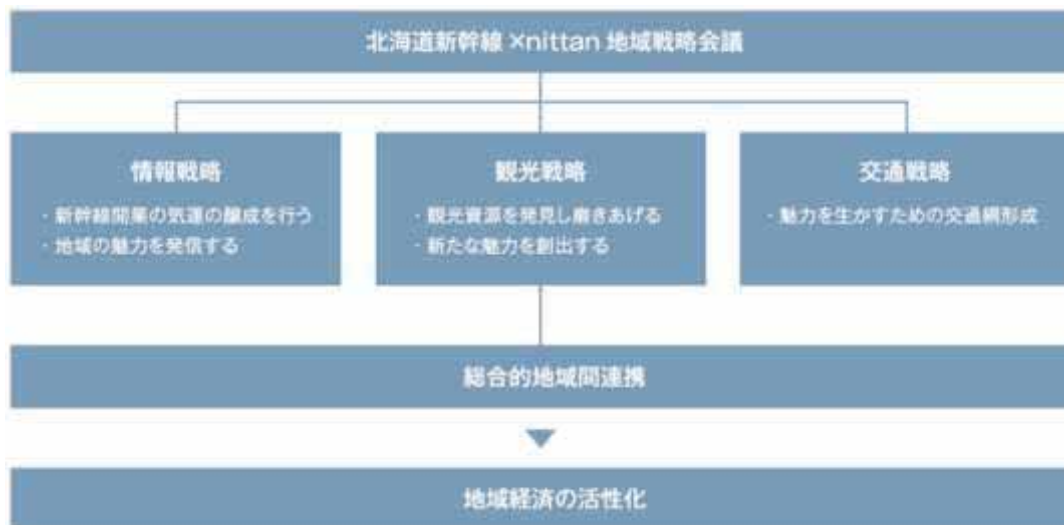
(3) 日胆地域におけるまちづくりや各種取組の状況

①北海道新幹線×nittan 地域戦略会議

新幹線開業効果を地域に最大限にもたらすために、日胆地域の 18 市町や経済団体など官民が一体となった「北海道新幹線×nittan 地域戦略会議」が平成 25 年 10 月に発足。日胆地域のブランド化に向けた様々な取組を実践している。

協議会の活動は、日胆地域の魅力を発信する「情報戦略」、観光資源を磨きながら新たな魅力を作り出す「観光戦略」、地域の魅力を活かすための交通網を形成する「交通戦略」を 3 本柱としている。

図表 北海道新幹線×nittan 地域戦略会議の事業戦略図



資料：北海道新幹線×nittan 地域戦略会議 平成 26 年度事業計画（案）

②胆振地域における特産品開発・ブランド化

胆振地域は、地域産業が一次産業・二次産業・三次産業のすべてが大きな産業になっている。この中で、三次産業である観光業・飲食業と地域の一次産業が協力した特産品開発や地域ブランド形成が各地で取り組まれている。

洞爺湖温泉街（洞爺湖町）では、「洞爺湖温泉『食』本物プロジェクト」として、旬の食材を使った料理を宿泊施設、飲食店などで月ごとに内容を変え提供を行ってきた。

「登別ブランド推進協議会」（登別市）では、登別産の原料を使って市内の事業所が製造した商品の中から、地域性や商品の食味などを基準に、登別ブランドとなる商品を認定。平成 27 年 2 月までに 23 商品を認定した。

「東胆振地域ブランド創造協議会」（苫小牧市・白老町・厚真町・安平町・むかわ町）では、観光を柱とした総合的・横断的な取り組みを連携して実践することで、地域全体のブランド力を創出・発信している。

図表 登別ブランド推奨品の詰め合わせギフト



(資料)
登別ブランド推進協議会

図表 東胆振地域ブランド創造協議会が立ち上げている特設サイト「いぶリアル」



(資料)
東胆振地域ブランド創造協議会

③日高地域のメニューづくり

日高地域は一次産業が地域経済の中心であり、観光業・飲食業と関連して各地域で地元食材を使ったメニューづくりが行われている。

日高地域の6軒の温泉施設で構成する「ひだか元気グルメ研究会」では、季節ごとに共通食材・テーマを決めてメニューを提供している。平成23年以降、これまでに12回のメニュー展開を行っている。

平取町では、特産のトマト・牛肉・豚肉を使った新ご当地グルメ「ニシパの恋人ランチ」を町内6店舗で提供。季節ごとに各店舗がメニューを変えながら提供を続けている。

新ひだか町では、静内町と三石町の合併に際して、両町の食材を使った新・ご当地グルメ「新ひだか桜ロコモコ」をメニュー化した。新ひだか町内8店舗で提供している。

図表 「ひだか元気グルメ研究会」のキャンペーンチラシ



(資料)協議会 facebook

図表 「新ひだか桜ロコモコ」のイメージカット



(資料)新ひだか観光協会ホームページ

2. 日胆地域における観光振興の現状と課題の把握

(1) 観光入込の状況

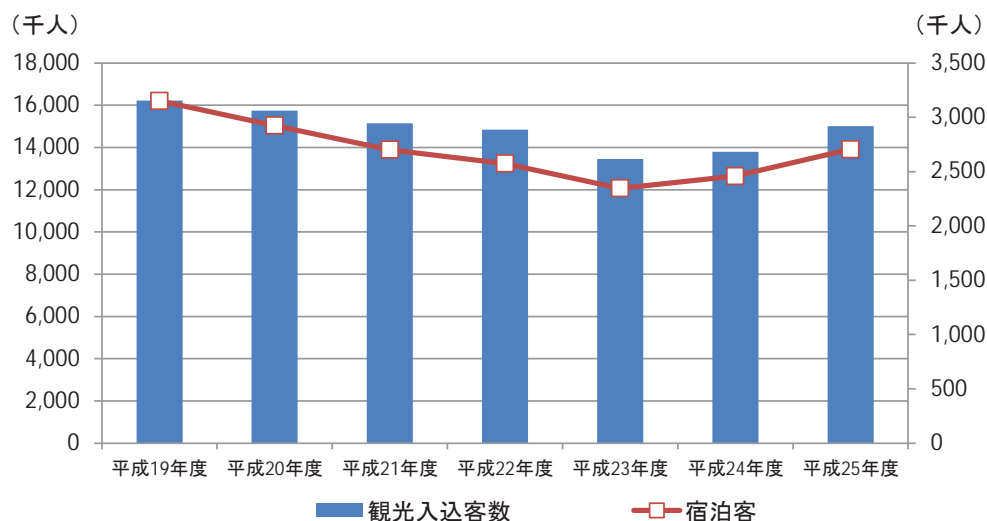
①胆振地域の観光入込

胆振総合振興局における観光入込客数・宿泊数は、平成24年以降増加傾向にある。

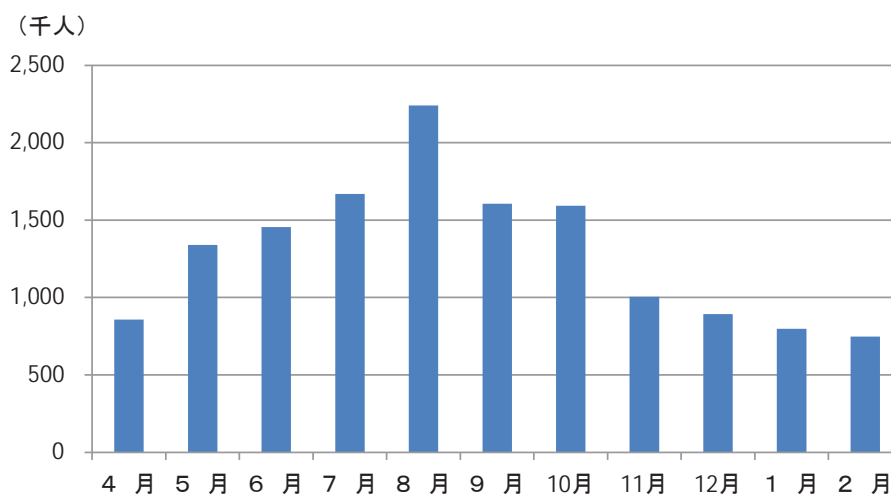
平成25年度は、観光入込客数1,500万人（北海道全体の11.4%）、宿泊客数270万人。道外客の割合は34%、宿泊客の割合は18%。

月別の観光入込客数では、8月が最も多くなっている。

図表 胆振地域の観光入込客数・宿泊客数の推移（平成19～25年度）

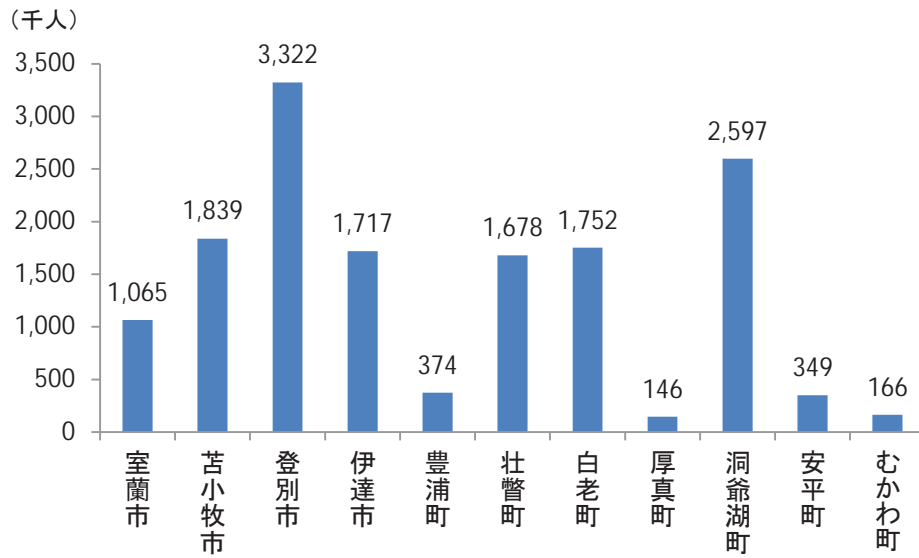


図表 胆振地域の月別観光入込客数（平成25年度）

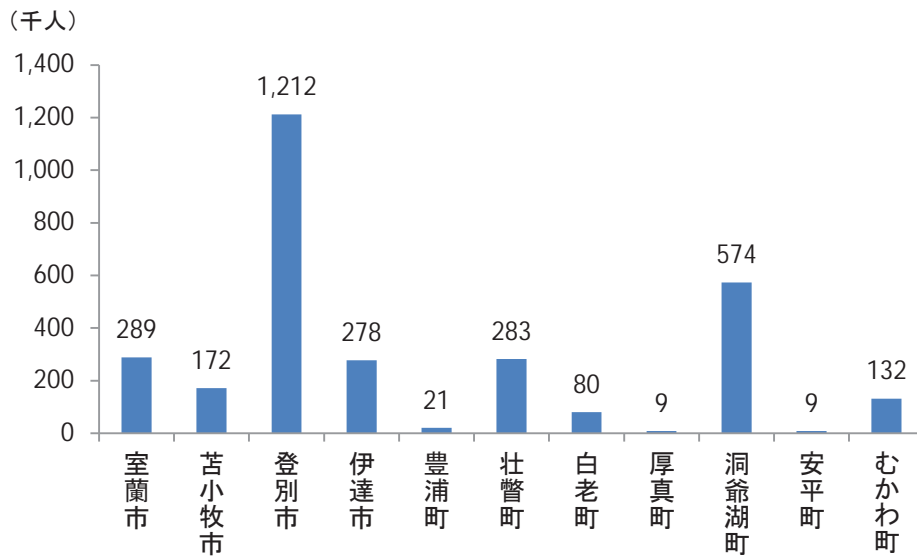


(資料)北海道観光入込客数調査報告書

図表 胆振地域の観光入込客数（平成 25 年度）



図表 胆振地域の宿泊客延数（平成 25 年度）



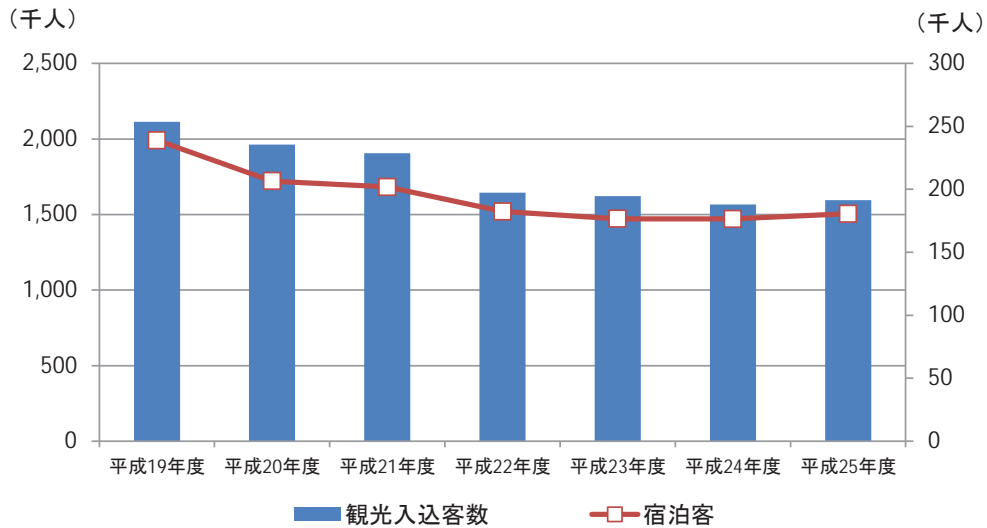
(資料) 北海道観光入込客数調査報告書

②日高地域の観光入込

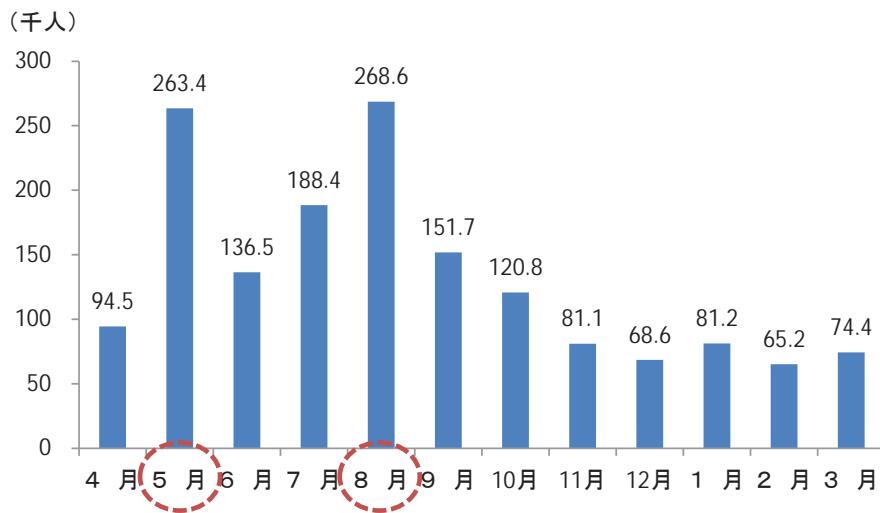
日高振興局における観光入込客数・宿泊数は、平成 25 年に若干増加し、観光入込客数 159 万人（北海道全体の 1.2%）、宿泊客数 18 万人となっている。道外客の割合は 15%、宿泊客の割合は 11%。外国人観光客の宿泊数（延べ数）は、平成 25 年度で 843 人。

観光入込客数は、桜の時期（5月）と夏期（8月）に集中している。

図表 日高地域の観光入込客数・宿泊客数の推移（平成 19～25 年度）

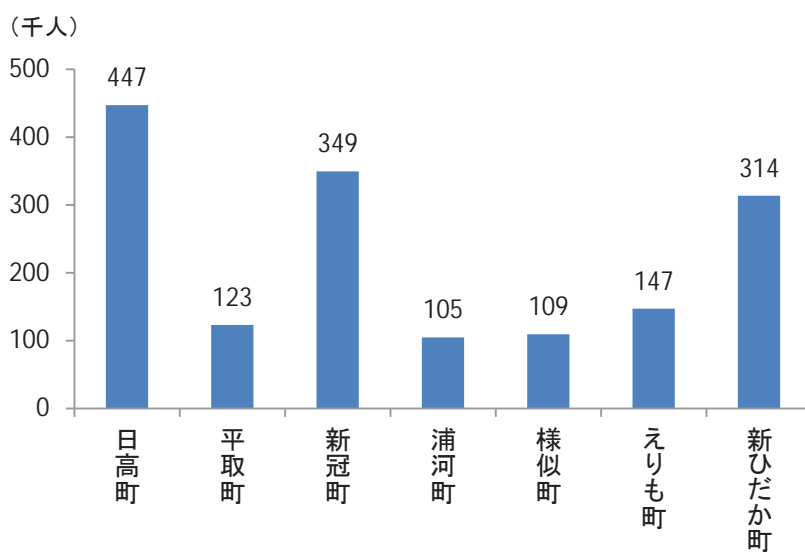


図表 日高地域の月別観光入込客数（平成 25 年度）

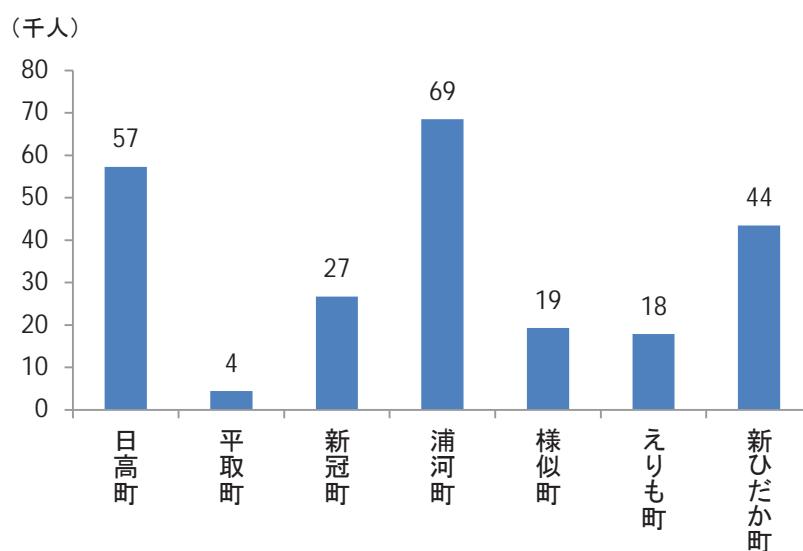


(資料)北海道観光入込客数調査報告書

図表 日高地域の観光入込客数（平成 25 年度）



図表 日高地域の宿泊客延数（平成 25 年度）



(資料)北海道観光入込客数調査報告書

(2) 日胆地域の観光振興に関する課題

① 宿泊施設・観光施設の状況

胆振地域の宿泊施設は、団体客、個人客・小グループ両方の受入が可能となっている。観光施設においても、有珠山・昭和新山・登別伊達時代村・ノーザンホースパークなど団体観光客を受け入れる施設が整っている。体験観光についても、苫小牧市の工場では団体の見学が可能となっている。

日高地域では、大規模な団体客を受け入れる宿泊施設、体験コンテンツ、観光施設が不足しており、個人観光客にターゲットを絞らざるを得ない状況にある。

高速道路のSA・PAや道の駅などの交通関係の施設は、全体的に老朽化してきており、今後の利用者増に向けた改修が必要な状況にある。

図表 登別温泉街（左）と有珠SA（右）



(写真左) 登別観光協会

②交通機関の状況

J Rやバスなどの公共交通機関を使って胆振地域を観光する場合、最寄りの駅やバスターミナルからの交通手段がない観光地が多い。また、路線バスを使って観光する場合、観光施設に関する車内広告や案内アナウンスが行われていない。

苫小牧市から日高地域にアクセスする公共交通機関は、J Rが一部区間運休しているほか、観光客が利用しやすいバス路線がない。

全体的に、路線設定や案内表示などに観光客を歓迎する仕掛けや仕組みが不足している。

図表 苫小牧駅前バスターミナル（左）と登別駅（右）



(参考) 新函館北斗駅からの移動手段

北海道の調査によると、「支笏湖・洞爺湖・登別」を最終目的地または経由地として選択した道外客が、新函館北斗駅で新幹線を降りた後の移動手段として選んだのは、「レンタカー」が50.0%で最も多く、次いで「J R在来線」が35.6%で多くなっている。

「小樽・倶知安・ニセコ」や「札幌」では「J R在来線」が最も多くなっているが、「支笏湖・洞爺湖・登別」では「レンタカー」が最も多くなっている。

図表 新幹線駅から道央方面への移動手段（単数回答）

		新幹線駅から道央方面への移動手段								
		合計	JR 在来線	レンタ カー	観光バ ス(団体 旅行)	路線 バス	タクシ ー	自家 用車	飛行機	その他
最終 目的地 + 経由地	道外居住者回答全体	1,741 100.0	788 45.3	689 39.6	125 7.2	57 3.3	47 2.7	15 0.9	14 0.8	6 0.3
	道央	1,203 100.0	552 45.9	484 40.2	74 6.2	38 3.2	33 2.7	9 0.7	8 0.7	5 0.4
	支笏湖・洞爺湖・登別	326 100.0	116 35.6	163 50.0	25 7.7	12 3.7	5 1.5	1 0.3	3 0.9	1 0.3
	小樽・倶知安・ニセコ	535 100.0	240 44.9	226 42.2	34 6.4	17 3.2	10 1.9	3 0.6	4 0.7	1 0.2
	札幌	1,008 100.0	485 48.1	383 38.0	60 6.0	32 3.2	27 2.7	8 0.8	8 0.8	5 0.5

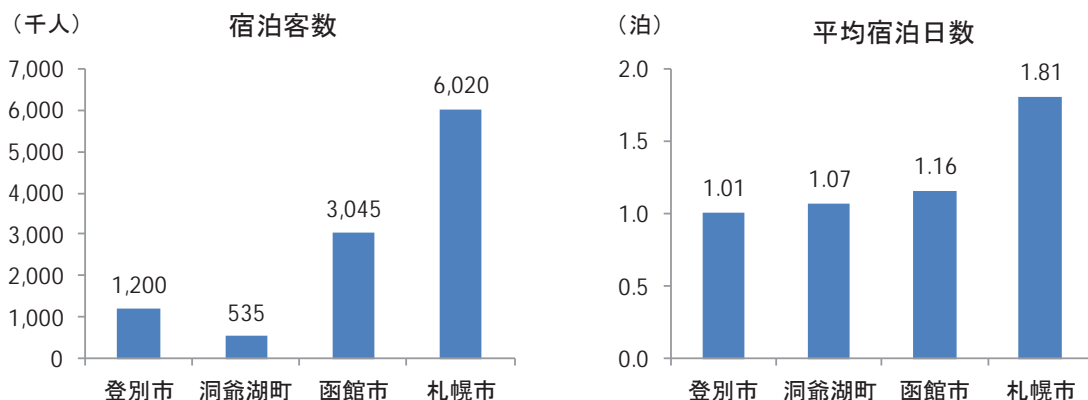
(資料) 「北海道新幹線開業後の二次交通動態調査」報告書

③登別市・洞爺湖町の平均宿泊数

道南・道央圏を周遊する旅行では、2泊3日の行程が主流となっており、胆振地域は移動途中に立ち寄る日帰り観光地になりやすい（札幌・函館の2泊が多いため）。

主要宿泊地である登別市・洞爺湖町と、函館市・札幌市の平均宿泊日数を比較すると、登別市・洞爺湖町がほぼ1泊であるのに対し、函館市では1.16泊、札幌市では1.81泊となっている。

図表 登別市・洞爺湖町と函館市・札幌市の宿泊状況比較（平成25年度）

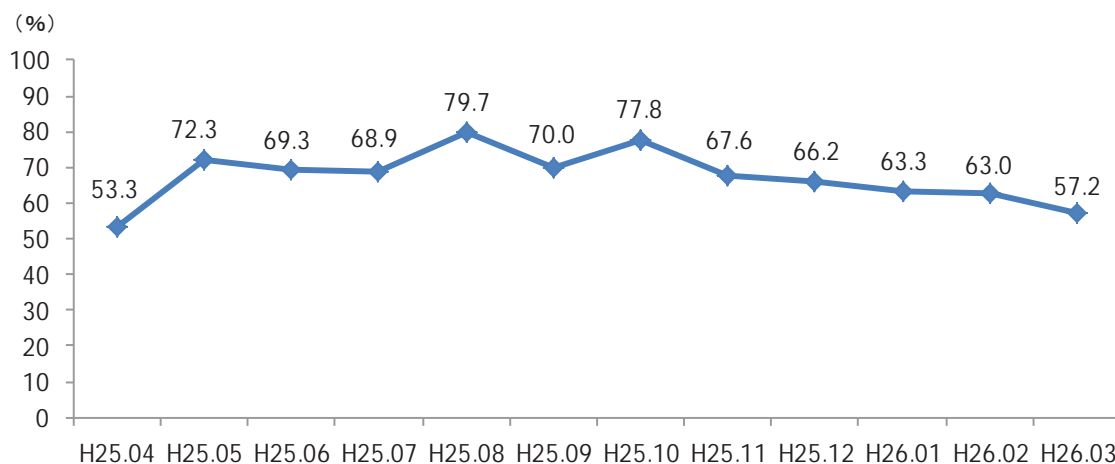


（資料）北海道観光入込客数調査報告書

（参考）登別市における客室稼働率

観光庁のデータによると、登別温泉の客室稼働率は最盛期の8月でも80%程度であり、今後観光客数が増加した場合でも受入の余地がある。（札幌、小樽、旭川、帯広の8月の客室稼働率は90%に達している）

図表 登別市における客室稼働率の推移（平成25年度）



（資料）観光庁

④しずない桜まつりの見物客

新ひだか町（静内地区）で5月に開催される「しずない桜まつり」の見物客が、まつりを見学後、えりも岬方面を観光する割合が少ないため、滞在時間（日数）の拡大に結びついていない。（札幌からの団体バス旅行が多いため）

図表 「しずない桜まつり」見物客の行動パターン



3. 日胆地域における今後の観光振興のあり方に係る方策

日胆地域において、今後観光経済効果を高めていくためには、次のような取組が必要となる。

(1) 観光客を増加させる	①日胆地域を楽しむ具体的なプランをPR
	②観光情報の発信、ICT技術の活用
	③新函館北斗駅からの誘導
	④二次交通の整備・案内体制の充実
(2) 滞在時間(日数)・消費金額を増やす	①日帰り観光の滞在時間を延ばす
	②日胆地域での宿泊観光・消費金額を増やす ②-1 夜景観光・星空観光 ②-2 サイクリング観光 ②-3 アイヌ文化・ジオパーク ②-4 サラブレッド観光 ②-5 道南～日胆～十勝のルート形成 ②-6 消費金額の高い観光客の誘致
	③持続的な集客 ③-1 リピーターの確保 ③-2 観光閑散期への対応
(3) 食材等の域内調達率を高める	①一次産業を支える観光業の形成
	②地域の食材活用を民間ベースで推進
(4) 観光客の動向に対応した戦略や受入体制	①観光客のタイプ別の戦略
	②受入体制・人材育成

(1) 観光客を増加させる

①日胆地域を楽しむ具体的なプランをPR

解決する課題	日胆地域の観光資源を有機的に繋げた観光プランを作成し、PRする必要がある。
--------	---------------------------------------

日胆地域を訪れる動機付けとして、観光客に日胆地域でどう遊んでもらうのか、どう楽しんでもらうのか工夫したプランを作成し、効果的なPRを行うことが重要となる。

「北海道新幹線×nittan 地域戦略会議」では、リクルート北海道じゃらんと連携し、大学生が考えた旅行プランをPRする冊子を発行している。今後も、こうしたPR活動が重要となる。

図表 観光戦略の一環として学生とコラボした旅行プランを作成し旅行雑誌で紹介

西胆振の旅行プランや東胆振、日高の名所を紹介する冊子

リクルート北海道じゃらん(札幌)は、道央圏の大学生が考えた西胆振の旅行プランや東胆振、日高の名所

北海道新幹線開業

日胆観光道央圏大学生が知恵

旅行プランや名所紹介 じゃらんが無料冊子

を紹介する冊子を発行した。胆振、日高の全18市町や企業でつくる「北海道新幹線×日胆地域戦略会議」と連携。「若者目線」で道内各地の魅力を伝えようと編集に取り組み、今月から、道央圏の大学や道内内の観光施設で無料配布している。

冊子はA4ワイド判カラー64面で5千部発行。同社が昨年6月、小樽開校大、札幌市立大、室蘭工業大の2〜4年生2万人を集めた「読書プロジェクト」を発足させ、会議や現地視察を経て内容を練ってきた。

当初は胆振、日高管内の旅行プランを作る予定だったが「18市町すべてを盛り込むのは難しく、地域を絞ることにした」と、同社担当者。冊子には卒業旅行をテーマにした特別温泉の学生向け宿泊プランと、岩間温泉の夜湯スポットなどを巡る日帰り観光ルートをメインに掲載。巻末に、むかわ町の宝珠シシトム(シスト)や白老町のアイヌ民族博物館など、東胆振と日高を含めた全18市町の魅力をまとめている。

(取材先提供)

北海道新聞 2015. 1. 29

【参考事例】

長野県の「南信州交通公社」では、地元住民や農家と連携し130以上の体験プログラムを案内している。こうした体験プログラムを充実させるには、観光客を受け入れる地元の理解が重要となる。



ウォーキングプログラムの様子
(写真) 南信州交通公社

②観光情報の発信、ICT技術の活用

解決する課題

日胆地域の観光情報を、効果的・継続的に発信する。

より多くの観光客が日胆地域を訪れるようになるには、観光客に日胆地域の情報を効果的に提供する必要がある。特に、事前にインターネットでの情報収集が一般的になった現代では、観光地による情報発信や利用者による口コミ情報が観光地選択の大きな判断材料となる。観光情報を発信する際のポイントとしては、以下のような点がある。

■ホームページやSNS（フェイスブックなど）を活用した情報発信

情報発信を行う際に重要なことは、定期的な更新を続けること。特に、ホームページの場合は、いつどこを更新したのかを明確にすることが必要になる。また、写真や動画を積極的に利用することで、観光客が必要な情報を伝えることができる。

外国語対応については、翻訳サイトの利用も考えられるが、最低限の情報については、英語・中国語（繁体字・簡体字）での発信を行うことが望ましい。

■観光客との双方向のやりとり

フェイスブック等のSNSサイトを活用するメリットの一つに、観光客との双方向性がある。観光客からの質問等のコメントに丁寧に対応することで、そのやりとりを見ている他の観光客予備軍の信頼を得ることができる効果もある。

また、最近はホテルや飲食店を選択する際に予約サイト等の口コミ情報を参考にする観光客が多いが、その際にも口コミへの返答をきちんと行うことが重要である。最も悪い対応は、評価の悪い口コミを行った観光客に対して何も返答をしないことである。

■旅行中の情報収集

スマートフォンやタブレット端末等の普及によって、旅行中でも情報収集を行うことが一般的になっている。観光地や施設内に無料Wi-Fiスポットを開設することは、最近の観光サービスのトレンドになっている。

③新函館北斗駅からの誘導

解決する課題	新函館北斗駅からアクセスする特急列車・高速道路を利用する観光客は、日胆地域を素通りする懸念がある。
--------	---

新函館北斗駅から日胆地域へのアクセス手段として、主要観光地へのバス路線（洞爺湖温泉号、登別温泉号など）を運行する。

また、レンタカー利用客に日胆地域に立ち寄ってもらう動機づけとして、自由に高速道路に乗り降りできる周遊割引、給油割引などの導入を検討する。

図表 東北6県を周遊できる「東北観光フリーパス」



(資料) NEXCO東日本

【参考事例1】

九州では新幹線を軸に、九州各地を結ぶ観光列車を運行している。新幹線沿線ではない九州東岸である大分県や宮崎県、終点の鹿児島中央から伸びる指宿方面などに運行している。



九州新幹線と観光列車の連携状況

(資料) JR九州

【参考事例2】

九州新幹線の鹿児島開業時には、新幹線と連絡した宮崎行き都市間バス「B&Sみやざき」を新八代駅から運行し新幹線利用客を宮崎へ誘導している。これは部分開業時の終端駅であった新八代駅の活用方策にもなっている。



新幹線連絡都市間バス「B&Sみやざき」(左)

(資料) JR九州バス

④二次交通の整備・案内体制の充実

解決する課題

日胆地域で交通結節点となる駅やバスターミナルから、観光地への移動手段や案内態勢が整備されていない。

観光客がJR・バス等の公共交通機関で日胆地域を訪れた時に、交通結節点となる主要駅・バスターミナルから観光地までの移動手段の確保、案内態勢(広域、多言語)を充実させる必要がある。また、レンタカー利用客に付いても、高速道路のSA・PAや国道沿いの道の駅等の立ち寄りスポットからの案内態勢の整備が必要となる。

公共交通機関での移動が困難な観光スポットへの移動や、短時間で効率的に観光地を回りたい観光客やレンタカーを運転できない高齢者や外国人向けには、主要駅やバスターミナルから利用できる観光タクシーを運行することで日胆地域への誘客を図る。

また、道南圏や東北の観光案内所・道の駅等と連携し、相互の観光パンフレットを設置することで、広範囲での周遊や東北からの誘客に繋げていく。

【参考事例】

八戸市では、八戸駅や公共交通機関の車内で観光客や市民の案内を行う公共交通アテンダント“はちこ”が活躍している。



公共交通アテンダント“はちこ”
(資料) 八戸公共交通ポータルサイト

(2) 滞在時間（日数）・消費金額を増やす

① 日帰り観光の滞在時間を延ばす

解決する課題	日胆地域の観光は、景勝地巡りや名所観光が中心であり、各観光地の滞在時間が短い。
--------	---

日帰り観光で日胆地域を訪れる観光客の滞在時間を延ばし、観光消費額を増やすために、ガイド付きの自然体験、乗馬、ものづくり体験、産業観光などをPRするとともに、観光案内付きの観光タクシーなどの交通手段の整備も進める。

【観光メニューの充実】



また、室蘭港・苫小牧港に寄港する大型クルーズ船が増えているが、苫小牧市・室蘭市ともに、官民あがて歓迎行事を行っている。クルーズ船の乗客の移動手段確保や、外国人客向けの日本文化体験など、乗客に楽しんでもらう仕掛けづくりを一層取り組んでいく必要がある。

図表 苫小牧市に入港したクルーズ船の歓迎行事の様子



(資料) 苫小牧市

②日胆地域での宿泊観光・消費金額を増やす

日胆地域での滞在日数・消費金額を増やすには、日胆地域で宿泊しなければ楽しめない観光資源や、地域全体を周遊して楽しむ観光メニューを増やすことが重要となる。

②-1 夜景観光・星空観光

解決する課題	室蘭の工場夜景や満天の星空を日胆地域の観光コンテンツとして育てる。
--------	-----------------------------------

日胆地域には、室蘭の夜景観光や星空など、宿泊しないと楽しむ事ができないコンテンツがある。こうしたコンテンツをPRすることで「もう1泊」に繋げていく。

室蘭の夜景を楽しむ手段として、夜景観光バス・夜景クルーズ・タクシープラン（登別温泉から）があるが、バスとクルーズの両方で室蘭の夜景を楽しむプランなどの観光商品づくりを進める。

図表 室蘭夜景のイメージカット



（資料）室蘭観光推進連絡会議

【参考事例】

弟子屈町の川湯温泉では、温泉街から摩周湖展望台に移動して星空を見るツアーを実施している（90分で2,700円）。



「摩周湖星紀行」のチラシ
（資料）ツーリズムてしかが

②-2 サイクリング観光

解決する課題

サイクリング観光は、日本人だけでなく外国人旅行者の人気も高く、日胆地域における受入態勢の整備が望まれる。

サイクリングは、日胆共通の観光テーマであり、観光の広域化・滞在日数のアップにつながる。特に、胆振・日高地域の海岸沿いは、アップダウンが少なく自転車で走りやすいルートと言える。そこで、日高本線の沿線を自由にサイクリングできるように、JR車内に自転車を折りたたまずに積み込める「サイクルトレイン」を導入することで、日高地域の観光客・滞在時間アップに繋げることができる。

また、スタンドを付けていないスポーツバイクを駐輪できる「サイクルラック」を観光施設や案内所に設置することで、サイクリング観光を歓迎する印になる。なお、胆振地域では、平成27年度に14か所のサイクルラックを設置する予定がある。

図表 サイクルラックの設置例



(資料) 日本サイクリング協会

【参考事例】

JR東日本やJR四国では、イベント時に一般車両をサイクルトレインとして運行した実績がある。また、上毛電鉄や近江鉄道などでは、日常的にサイクルトレインを運行している。



サイクルトレインの車内
(資料) 上毛鉄道

②-3 アイヌ文化・ジオパーク

解決する課題	国立アイヌ文化博物館の整備やアポイ岳の世界ジオパーク認定などで今後注目が集まるため、受入整備が必要となる。
--------	---

白老町には、2020年に民族共生の象徴となる空間（象徴空間）として国立アイヌ文化博物館が開設される。平取町の「二風谷アイヌ文化博物館」とあわせて、日胆地域でアイヌ文化に触れる観光客の誘客に繋げていく。

また、「洞爺湖有珠山」に続いて「アポイ岳」が世界ジオパークに認定される見通しとなっていることから、今後、ジオパークの学習・研究・体験などを通じて、滞在型観光客の増加に繋げていく。

図表 国立アイヌ博物館の案内（左）と洞爺湖有珠山ジオパークのイメージカット（右）



（資料）白老町（左）、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会（右）

②-4 サラブレッド観光

解決する課題

日本で唯一と言えるサラブレッド観光を活性化する。

胆振東部から日高にかけては、日本有数の馬産地となっており、広大な牧場にサラブレッドが駆け回る風景は、日本で唯一のものと言える。

団体客の受入が可能な施設としては、苫小牧市のノーザンホースパークがあり、サラブレッドとの触れ合いやアウトドア体験などが可能となっている。

日高地方は牧場が続くサラブレット銀座があり、放牧されているサラブレッドを車窓で楽しみながらドライブすることができるが、放牧風景の見学だけでなく、調教風景の見学、乗馬体験（中央競馬の重賞勝ち馬への乗馬も可能）など、様々な楽しみ方ができる。こうした楽しみ方を積極的にPRすることが必要である。

図表 日高地域で見ることができるサラブレッドの様子



（資料）日高振興局

②-5 道南～日胆～十勝のルート形成

解決する課題	札幌方面を通らない新たな観光ルートを形成する。
--------	-------------------------

北海道を訪れる観光客の中ではリピーターの割合が増えており、道央圏の中でも札幌・小樽の観光は経験済みという旅行者が多い。そこで、北海道を新幹線で訪れたリピーター客が、新函館北斗駅から札幌方面を目指さずに、日胆地域を通り十勝方面へという観光ルートを選択するように魅力を発信することで、日胆地域の宿泊客を増やす。

また、サイクリング観光においても、日胆地域と十勝を連携した広域ルートが有望であり、滞在時間・宿泊客数の増加が期待できる。

図表 道南～日胆～十勝への新しいルート



図表 「日高・胆振・十勝 めぐろうナビ」



(資料) 日高・胆振・十勝 (総合) 振興局

②-6 消費金額の高い観光客の誘致

解決する課題	一人あたりの消費金額が高い観光客の割合を増加させる。
--------	----------------------------

北海道を訪れる観光客の中でも、一人あたりの消費金額が高い富裕層や、学会・会議・褒賞旅行で訪れるM I C E層を日胆地域に誘客することで、地域全体の消費金額アップに繋げていく。

特に、日胆地域には平成 20 年に開催された北海道洞爺湖サミットのメイン会議場となった「ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ」があるが、この施設は国内外の富裕層が顧客となっているほか、海外企業の会議や褒賞旅行にも活用されている。

また、登別温泉・洞爺湖温泉には富裕層をターゲットにした宿泊施設があり、これ以外にも富裕層やアッパーミドル向けの改装を行う宿泊施設がある。

こうした宿泊施設の整備に加えて、富裕層向けの観光サービス（体験観光・通訳・観光タクシーなど）を整備し、日胆地域における観光商品の金額を増やしていくことが重要になる。

③持続的な集客

③-1 リピーターの確保

解決する課題	北海道観光のリピーターを日胆地域に引きつける。
--------	-------------------------

北海道旅行はリピーターの割合が増えているが、新千歳空港から比較的近い日胆地域は、リピーターが旅の最初または最後に訪れる地域に選択してもらえる可能性が高い点で、道内の他の地域よりも優位にある。

日胆地域がリピーターの旅行先に選ばれるためには、「何度訪れても楽しめる」「居心地がよい」地域になる必要がある。あるいは、日胆地域でしか楽しめない食の魅力をアップさせることで、「もう一度食べたい」と思わせる事が重要となる。

【日胆地域にリピーター増やすために必要なもの】
・日胆地域でのみ楽しめる「発見」
・何度でも訪れたい「おもてなし」
・もう一度食べたい「グルメ」

③-2 観光閑散期への対応

解決する課題	観光入込客数が落ち込む11月～4月の観光客数を増加させる。
--------	-------------------------------

北海道における観光入込の状況は、スキー場がある地域を除いて冬期間の減少が著しく、日胆地域においても11月～4月には観光客が減少している。年間の観光客数を平準化することで、観光産業の経営安定や雇用安定にも繋がってくる。

日胆地域は、北海道の中では積雪量が少なく、冬期間でも道路状況が良い。また、太陽の日差しを温かく感じる事ができる日が多いのも特徴。こうした冬期間の天候をPRすることで、北海道の他地域との違いをPRする事も重要である。

また、冬期間のイベントを開催し集客に繋げることも必要である。洞爺湖温泉街では春～秋にかけて湖畔の花火大会で集客に努めているが、阿寒湖温泉では春～秋にはアイヌ古式舞踊のステージ「イオマンテの火まつり」を、冬には氷上フェスティバル「ICE・愛す・阿寒『冬華美』」を開催している。

図表 イオマンテの火まつり（左）、氷上打ち上げ花火（右）



(資料) 釧路市

(3) 食材等の域内調達率を高める

①一次産業を支える観光業の形成

解決する課題	観光業（宿泊施設や飲食店）が地元食材を積極的に活用することで、地域の一次産業を支える。
--------	---

観光客の増加による経済波及効果をより高めるには、地域の食材を積極的に活用し域内調達率を高める事で、農業者・漁業者にも利益をもたらすことが重要となる。

旅館やホテルの食事も、ありきたりの温泉旅館の食事ではなく、地元食材を提供することで、他の観光地と差別化を図る。また、おみやげ品も地元産の商品を多く取りそろえPRを行う。

道の駅や高速道路のサービスエリアの物販施設を活用し、日胆地域の農産物・海産物の販売を強化する。例えば、平成26年の伊達市の道の駅の収入は5.86億円（対前年比29%増）であるが、そのうち農産物直売所の売上は3億円（対前年比26%増）となっている。店舗の面積を拡張したことと、出品する農家数が73戸から83戸に増加したことが販売額アップの要因となっている。

図表 産地名が記載されたメニュー表示



(資料) 洞爺観光ホテル

図表 道の駅「だて歴史の杜」の農産物直売所



(資料) 伊達市ホームページ

【参考事例1】

高知県四万十町の「道の駅四万十とおわ」は、開業前の試算では「よくて年に5万人」の見通しが、今では年間約15万人が訪れる人気のスポットに成長している。『天然うなぎ』や『天然あゆ』が食べられるレストランと、四万十の素材を使ったオリジナル商品が買える物産館が人気となっている。



道の駅四万十とおわの物産館
(資料) 株式会社四万十ドラマ

【参考事例2】

山口県萩市の「道の駅萩シーマート」は、地元漁協が、鮮魚仲買業者や食品加工業者と共同で設立した組合が運営する道の駅。漁港に隣接していることから新鮮な魚介類の品揃えが豊富である。萩漁港の水揚げ高の約15%を販売しており、地産地消に貢献している。



道の駅萩シーマート外観
(資料) 道の駅萩シーマート

②地域の食材活用を民間ベースで推進

解決する課題	日胆各地で行われている食材利用の取組を集結し、より強固な取組とする。
--------	------------------------------------

日胆地域の各地域では、地元食材を活用した特産品づくり、メニュー開発、ブランド化など、様々な取組が行われている。

日高地域では、各町で活動を取っていた団体のメンバーが中心となり、日高全体の魅力アップや情報発信に取り組む「HIDAKAおもてなし部会」が平成26年4月に立ち上がり、勉強会を通じて各町の観光資源や食を学ぶ事で、これまで知ることがなかった周辺町の魅力を知るきっかけとなっている。また、各地の食のイベントにも積極的に参加し、日高産の食を積極的にPRしているほか、新メニューやおみやげ品の開発などを計画している。

今後は、こうした団体が横の連携を取ることで、より大きな活動に繋げていくことが重要となる。

図表 勉強会の様子（左）、さっぽろオータムフェストへの出店



(資料) HIDAKAおもてなし部会

(4) 観光客の動向に対応した戦略や受入体制

①観光客のタイプ別の戦略

解決する課題	日胆地域を訪れる観光客が多様化しており、それぞれに対応した戦略が必要になってくる。
--------	---

日胆地域を訪れる観光客は、従来の温泉客や団体のツアー客中心から、外国人観光客、レンタカー移動する個人客、趣味やスポーツイベントなど特定の目的を持って訪れる観光客などに多様化している。

顧客のタイプ	対応戦略
団体客	従来型の名所観光・温泉だけではなく、農業体験・手作り体験など体験観光メニューも盛り込んでいく。(受入体制づくり)
個人客	個人観光客が事前に旅行ルートを作成するために必要な情報について、インターネットなどを活用し発信を行う。
特定目的の観光客	日胆地域では、アニメ・バイクなどのファン向けイベントや、マラソン・サイクリングなどのスポーツイベントが開催されているが、こうしたイベント参加者を地域の観光施設が広く受け入れていく。

図表 TOYAKO マンガ・アニメフェスタ (左)、北海道いぶりロングライド (右)



(資料) 北海道 Likers (左)、北海道いぶりロングライド実行委員会 (右)

②受入体制・人材育成

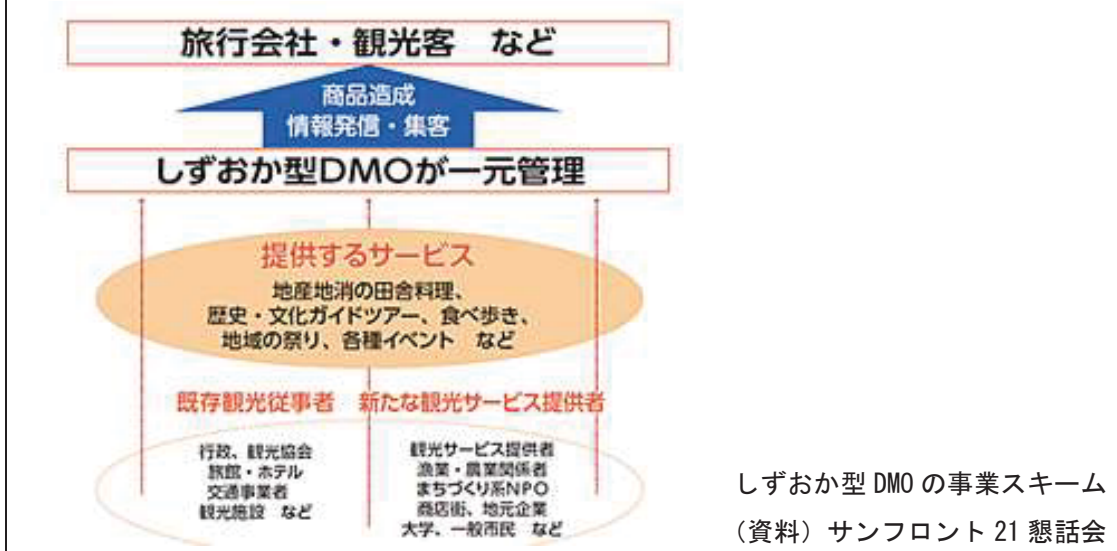
解決する課題	日胆地域全体の観光をマネジメントする組織・人材が必要になる。
--------	--------------------------------

日胆地域が広域で観光客を受け入れて行くためには、これまで各地域が個別に行ってきた観光プロモーションや現地での観光サービスを広域でマネジメントできる組織・人材が求められてくる。

日胆地域では、西胆振・東胆振・日高と各地域で広域の観光振興に取り組んでいるが、「北海道新幹線×nittan 地域戦略会議」が新たに立ち上がり、日胆地域全体での取組がはじまっている。こうした組織を発展させ、日胆地域全体の観光をマネジメントできる組織になることが期待される。

【参考事例】

DMOとは、「Destination Management(Marketing) Organization」の略。観光プラットフォームとも呼ばれるもので、体験メニューのワンストップサービスから、観光地のマーケティング、プロモーション、集客、観光戦略の立案や事業計画のマネジメントまで幅広く行う。4 エリア 180 コンテンツを提供する「阿蘇地域振興デザインセンター」(熊本県) や、小値賀島の暮らしそのものを民泊という形で商品化する「おじかアイランドツーリズム協会」(長崎県) などがその代表。



4. 日胆地域における交流人口増加に伴う経済波及効果の推計

日胆地域において、今後観光経済効果を高めていくためには、次の3つの取組がポイントとなる。

1. 観光客数を増加させる

日胆地域を訪れる観光客の人数を増加させる取組を行う。



2. 滞在時間（日数）・消費金額を増やす

日胆地域への滞在時間や宿泊数を長くすることで、日胆地域内における消費金額を増大させる。



3. 食材等の域内調達率を高める

日胆地域で提供する食材やおみやげ品を地域内から調達することで、経済波及効果を高める。

今回の経済波及効果の推計については、北海道新幹線函館開業による日胆地域への観光客増加に加えて、「2. 滞在時間（日数）・消費金額を増やす」「3. 食材等の域内調達率を高める」の取組を実施した場合の経済波及効果について推計を行った。

(1) 交流人口増加に伴う経済波及効果の考え方

①推計シナリオ

経済波及効果を推計するに当たって、まず、平成25年度の観光入込客数に対する日胆地域の観光経済波及効果を推計した。

次に、北海道新幹線函館開業時に、日胆地域における交流人口（道外からの観光入込客数）が現状からどの程度増加するのかを算出し、その場合の日胆地域における経済波及効果を計測した。

さらに、日胆地域において、宿泊割合を高めるような取組や、域内循環（消費）を増やすような取組を進めた結果、宿泊客の割合が58.7%から70%まで上昇、関連消費の域内調達率が現在よりも10%上昇する場合の経済波及効果を推計した。

②経済波及効果推計に当たっての考え方

■推計方法について

- ・ まず観光客1人当たりの消費単価を設定し、当地域の観光入込客数を乗じることで、当地域における総観光消費額を推計。
- ・ 産業連関表により表される取引構造に基づき、総観光消費額がもたらす各産業への波及効果（生産活動）と、生産活動の増加がもたらした雇用者所得の増加が家計を通じて、地域に2次的に波及する効果を計測。両者の合計額を経済波及効果とする。

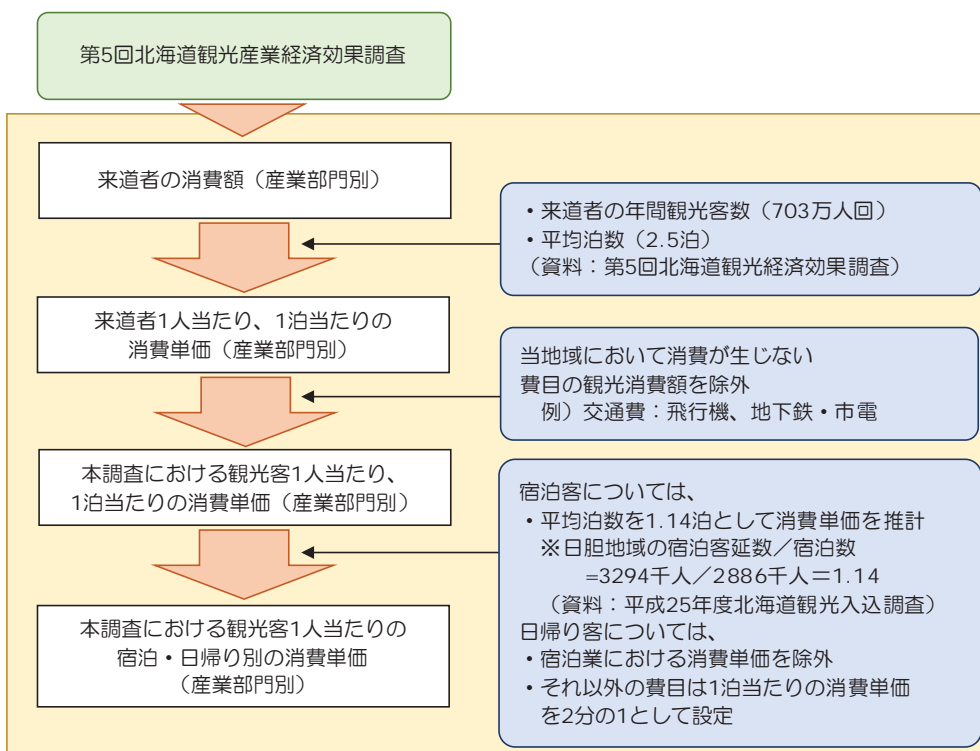
■観光客の消費単価の設定方法について

- ・ 観光客の消費額は、「第5回北海道観光産業経済効果調査」（北海道経済部）で示される来道者の産業部門別観光消費額を活用し、宿泊・日帰り別／費目別の消費単価を設定した。
- ・ ただし、上記の観光消費額のうち、飛行機利用など、当地域において消費が生じないことが明らかな観光消費額は除外した。

■使用する産業連関表について

- ・ 経済波及効果の推計に当たっては、平成17年北海道地域産業連関表（公表されている最新のもの）を使用した。
- ・ なお、地域特性を反映させるという観点からは、本来地域別の産業連関表を用いることが望ましいが、道内の地域別表である北海道内地域間産業連関表（北海道開発局）において当地域は道央地域に組み込まれているため、北海道表よりも札幌圏の特性が強く反映されてしまうことが懸念されるため、今回の推計においては地域別表ではなく、北海道表を活用した。

図表 観光客の消費単価の設定方法



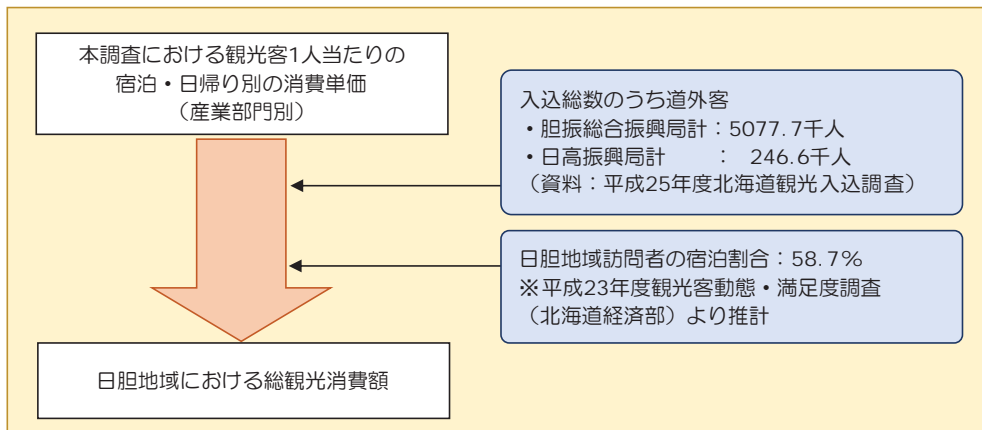
図表 本調査において設定した観光客 1 人当たりの消費単価（産業部門別）

単位：円

		宿泊客 (1泊当たり)	日帰り客 (1日当たり)
1	耕種農業	157	78
2	その他農業・林業	14	7
3	漁業	1,097	548
4	農産食料品	217	109
5	水産食料品	563	282
6	その他食料品	2,269	1,135
7	繊維製品	275	138
8	パルプ・紙・木製品	101	50
9	化学製品	58	29
10	石油・石炭製品	250	125
11	履物・皮革製品	104	52
12	窯業・土石製品	218	109
13	情報・通信機器	64	32
14	精密機械	1	1
15	その他製造工業製品	157	78
16	卸売	1,381	690
17	小売	215	107
18	鉄道旅客輸送	1,643	822
19	鉄道貨物輸送	3	1
20	道路旅客輸送	1,011	506
21	道路貨物輸送	490	245
22	水運	256	128
23	その他運輸付帯サービス	185	92
24	その他運輸	53	26
25	通信・放送	12	6
26	その他情報通信	59	29
27	社会教育	203	102
28	医療・保健・社会保障・介護	112	56
29	その他の公共サービス	49	25
30	物品賃貸業（除貸自動車業）	72	36
31	貸自動車業	1,099	549
32	娯楽サービス	449	225
33	飲食店	4,245	2,122
34	宿泊業	7,145	0
35	その他対個人サービス	604	302
	合計	24,832	8,843

※消費額が発生している産業部門のみを記載。

図表 日胆地域における総観光消費額の推計フロー



日胆地域における総観光消費額（産業部門別）

単位：100万円

		宿泊客	日帰り客	計
1	耕種農業	559	172	731
2	その他農業・林業	50	15	66
3	漁業	3,911	1,206	5,117
4	農産食料品	774	239	1,013
5	水産食料品	2,010	620	2,630
6	その他食料品	8,095	2,496	10,591
7	繊維製品	982	303	1,285
8	パルプ・紙・木製品	360	111	471
9	化学製品	207	64	270
10	石油・石炭製品	891	275	1,165
11	履物・皮革製品	372	115	487
12	窯業・土石製品	777	240	1,017
13	情報・通信機器	228	70	298
14	精密機械	4	1	6
15	その他製造工業製品	559	172	732
16	卸売	4,926	1,519	6,445
17	小売	767	236	1,003
18	鉄道旅客輸送	5,862	1,807	7,669
19	鉄道貨物輸送	10	3	12
20	道路旅客輸送	3,606	1,112	4,718
21	道路貨物輸送	1,748	539	2,286
22	水運	914	282	1,196
23	その他運輸付帯サービス	659	203	862
24	その他運輸	189	58	247
25	通信・放送	43	13	56
26	その他情報通信	209	64	273
27	社会教育	725	223	948
28	医療・保健・社会保障・介護	400	123	524
29	その他の公共サービス	175	54	229
30	物品賃貸業（除貸自動車業）	257	79	336
31	貸自動車業	3,919	1,208	5,127
32	娯楽サービス	1,602	494	2,096
33	飲食店	15,141	4,668	19,810
34	宿泊業	25,486	0	25,486
35	その他対個人サービス	2,155	664	2,820
合計		88,572	19,451	108,023

※総観光消費額が発生している産業部門のみを記載。

(2) 日胆地域における経済波及効果

①日胆地域における現状の観光経済波及効果

「北海道観光入込客数調査報告書」(北海道経済部)によると、平成25年度の日胆地域の観光入込客数は年間1,659万人で、そのうち道外客数は532万人になっている。この観光客数に対して、日胆地域全体では1,080億円の消費支出が生じることになり、この消費支出により1,885億円の経済波及効果が生じていると推計される。

図表 平成25年度の観光入込数に対する日胆地域における経済波及効果

(単位：100万円)

	消費支出 (A)	経済波及効果 (B)	B/A
現状	108,023	188,471	1.74

図表 平成25年度の観光入込数に対する日胆地域における経済波及効果(産業部門別)

単位：100万円

		経済波及効果		
			1次波及効果	2次波及効果
1	農林水産業	9,688	8,034	1,654
2	鉱業	186	110	76
3	製造業	22,983	16,329	6,655
4	建設業	1,377	691	685
5	電気・ガス・水道業	6,864	4,086	2,778
6	商業	16,491	8,991	7,500
7	金融・保険業	8,704	4,239	4,466
8	不動産業	13,612	1,810	11,802
9	運輸・通信業	25,926	20,329	5,598
10	サービス業	82,207	64,106	18,100
11	公務	434	173	261
合計		188,471	128,897	59,575

②新幹線函館開業に伴う道外観光客数の増加

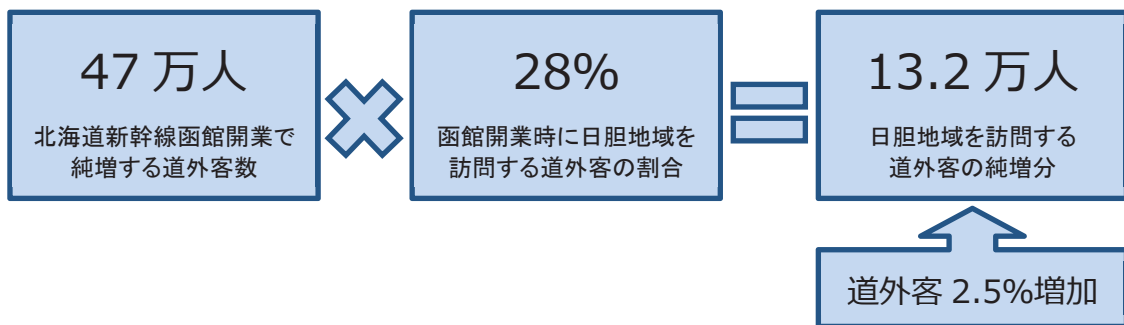
「北海道新幹線函館開業による経済効果調査」(榊野村総合研究所)によると、北海道新幹線が函館まで開業した時に増加する道外観光客数は、約47万人の純増(「純増」とは航空機等からの転換を除く増加分)となっている。

「北海道新幹線開業後の二次交通動態調査」(北海道総合政策部)によると、北海道新幹線函館開業時に日胆地域を訪問する道外客の割合は、「支笏湖・洞爺湖・登別」が18.7%となっている。そこから、日胆地域全体の訪問割合を約28%と推計する。

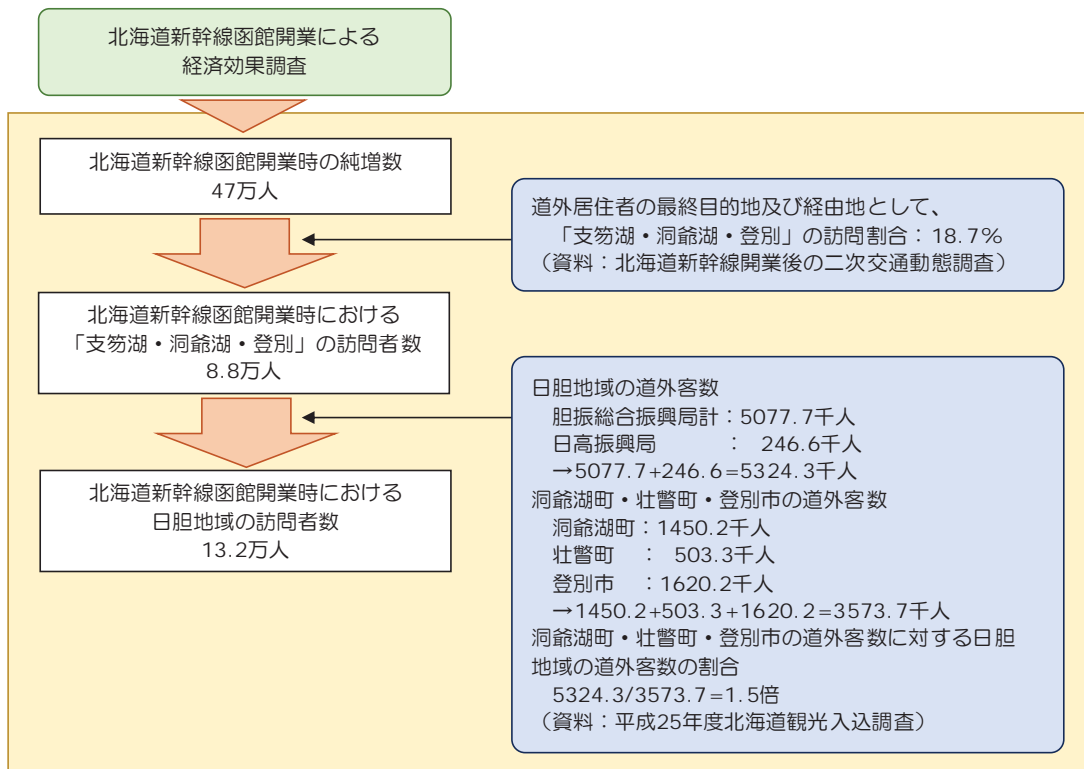
(推計根拠) 洞爺湖町・壮瞥町・登別市の道外客数357万人に対して、日胆地域全体の道外客数532万人(約1.5倍)であることから、 $18.7\% \times 1.5 \approx 28\%$ 。

以上の調査結果から、北海道新幹線函館開業時に増加する道外客数は、 $47 \text{万人} \times 28\% = 13.2 \text{万人}$ と推計できる。これは、平成25年度の道外客数532万人の2.5%にあたる。

図表 北海道新幹線函館開業における道外客数の増加



図表 北海道新幹線函館開業に日胆地域を訪問する道外客の推計フロー



③道外客が2.5%増加した場合の経済波及効果

現状の観光入込客数に応じて、当地域全体では1,080億円の消費支出が生じることになり、この消費支出により1,885億円の経済波及効果が生じていると推計される。

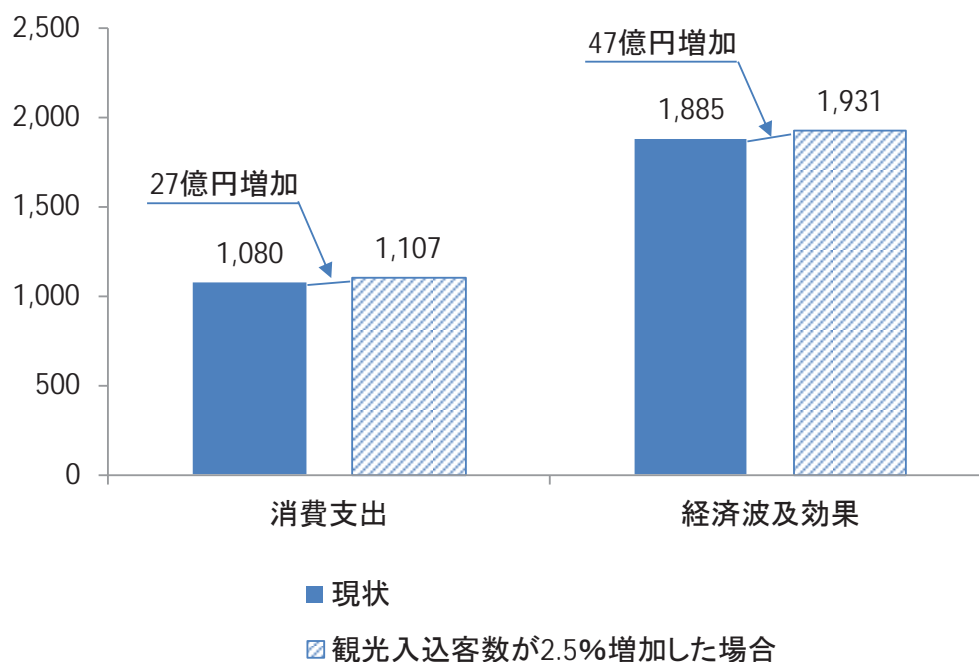
北海道新幹線の函館開業により、日胆地域への交流人口（道外からの観光入込客数）が2.5%増加した場合、当地域全体で1,107億円の消費支出が生じることになり、この消費支出により1,931億円の経済波及効果が生じていると計測された。

図表 道外客が2.5%増加した場合の経済波及効果

(単位：100万円)

	消費支出 (A)	経済波及効果 (B)	B/A
現状 (C)	108,023	188,471	1.74
観光入込客数が 2.5%増加した場合 (D)	110,701	193,144	1.74
観光客が2.5%増加した場合の 増加額 (D-C)	2,678	4,673	

(単位：億円)



図表 観光入込客数が2.5%増加した場合の総観光消費額（産業部門別）

単位：100万円

		宿泊客	日帰り客	計
1	耕種農業	572	176	749
2	その他農業・林業	51	16	67
3	漁業	4,008	1,236	5,244
4	農産食料品	793	245	1,038
5	水産食料品	2,060	635	2,695
6	その他食料品	8,296	2,558	10,853
7	繊維製品	1,007	310	1,317
8	パルプ・紙・木製品	369	114	483
9	化学製品	212	65	277
10	石油・石炭製品	913	281	1,194
11	履物・皮革製品	381	118	499
12	窯業・土石製品	796	246	1,042
13	情報・通信機器	234	72	306
14	精密機械	5	1	6
15	その他製造工業製品	573	177	750
16	卸売	5,048	1,556	6,604
17	小売	786	242	1,028
18	鉄道旅客輸送	6,007	1,852	7,860
19	鉄道貨物輸送	10	3	13
20	道路旅客輸送	3,696	1,140	4,835
21	道路貨物輸送	1,791	552	2,343
22	水運	937	289	1,226
23	その他運輸付帯サービス	675	208	884
24	その他運輸	193	60	253
25	通信・放送	44	13	57
26	その他情報通信	214	66	280
27	社会教育	742	229	971
28	医療・保健・社会保障・介護	410	126	537
29	その他の公共サービス	180	55	235
30	物品賃貸業（除貸自動車業）	264	81	345
31	貸自動車業	4,016	1,238	5,254
32	娯楽サービス	1,642	506	2,148
33	飲食店	15,517	4,784	20,301
34	宿泊業	26,118	0	26,118
35	その他対個人サービス	2,209	681	2,890
	合計	90,768	19,933	110,701

※総観光消費額が発生している産業部門のみを記載。

図表 観光入込客数が2.5%増加した場合の日胆地域における経済波及効果（産業部門別）

単位：100万円

		経済波及効果		
			1次波及効果	2次波及効果
1	農林水産業	9,928	8,233	1,695
2	鉱業	191	113	78
3	製造業	23,553	16,734	6,820
4	建設業	1,411	709	702
5	電気・ガス・水道業	7,034	4,187	2,847
6	商業	16,900	9,214	7,686
7	金融・保険業	8,920	4,344	4,576
8	不動産業	13,950	1,855	12,095
9	運輸・通信業	26,569	20,833	5,736
10	サービス業	84,245	65,695	18,549
11	公務	445	178	267
合計		193,144	132,092	61,052

④滞在泊数・域内調達率を高めた場合の経済波及効果

日胆地域において、宿泊割合を高めるような取組や、域内循環（消費）を増やすような取組を進めた結果、宿泊客の割合が58.7%から70%まで上昇、関連消費の域内調達率が現在よりも10%上昇する場合の経済波及効果を推計した。

その結果、日胆地域全体で生じる消費支出は1,317億円まで増加し、この消費支出により2,534億円の経済波及効果が生じると計測された。

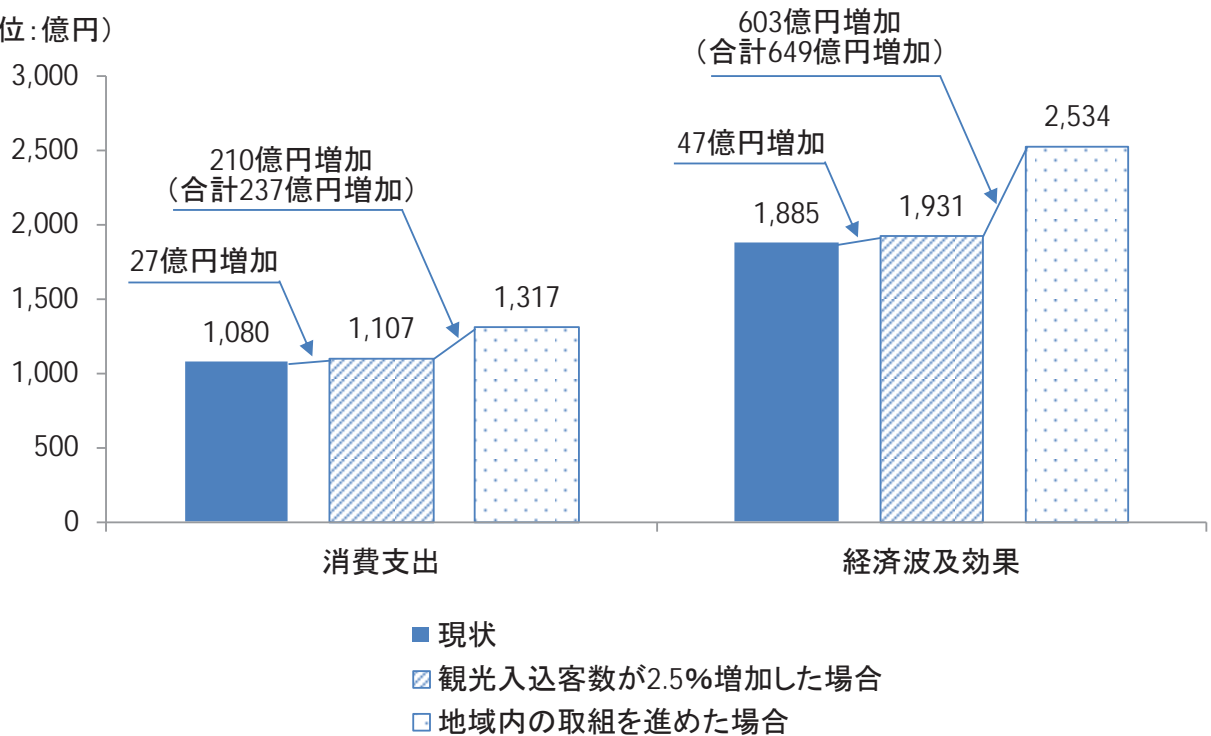
地域内取組を進めた場合に生じることになる経済波及効果は、取組を何も行わなかった場合と比べて603億円増加することになり、これは消費支出の増加額（210億円）の2.86倍に相当するなど、現状と比べてより大きな経済波及効果が生じることになる。

図表 滞在泊数・域内調達率を高めた場合の経済波及効果

(単位：100万円)

	消費支出 (A)	経済波及効果 (B)	B/A
現状 (C)	108,023	188,471	1.74
観光入込客数が 2.5%増加した場合 (D)	110,701	193,144	1.74
地域内の取組を進め宿泊割合や域 内循環を増やした場合 (E)	131,745	253,418	1.92
地域内の取組を進めた場合の 更なる増加額 (E-D)	21,044	60,274	

(単位：億円)



図表 滞在泊数・域内調達率を高めた場合の総観光消費額（産業部門別）

単位：100万円

		宿泊客	日帰り客	計
1	耕種農業	733	138	870
2	その他農業・林業	66	12	78
3	漁業	5,132	963	6,095
5	農産食料品	1,016	191	1,206
6	水産食料品	2,637	495	3,132
7	その他食料品	10,621	1,994	12,614
8	繊維製品	1,289	242	1,531
9	パルプ・紙・木製品	473	89	561
10	化学製品	271	51	322
11	石油・石炭製品	1,168	219	1,388
12	履物・皮革製品	488	92	580
13	窯業・土石製品	1,020	191	1,211
19	情報・通信機器	299	56	355
22	精密機械	6	1	7
23	その他製造工業製品	734	138	871
27	卸売	6,463	1,213	7,676
28	小売	1,006	189	1,195
32	鉄道旅客輸送	7,691	1,444	9,135
33	鉄道貨物輸送	13	2	15
34	道路旅客輸送	4,732	888	5,620
35	道路貨物輸送	2,293	430	2,723
36	水運	1,200	225	1,425
38	その他運輸付帯サービス	865	162	1,027
39	その他運輸	248	46	294
40	通信・放送	56	10	66
41	その他情報通信	274	51	325
43	社会教育	951	178	1,129
45	医療・保健・社会保障・介護	525	99	624
46	その他の公共サービス	230	43	273
47	物品賃貸業（除貸自動車業）	337	63	401
48	貸自動車業	5,142	965	6,107
50	娯楽サービス	2,102	395	2,496
51	飲食店	19,865	3,729	23,595
52	宿泊業	33,438	0	33,438
53	その他対個人サービス	2,828	531	3,358
	合計	116,207	15,538	131,745

※総観光消費額が発生している産業部門のみを記載。

図表 滞在泊数・域内調達率を高めた場合の日胆地域における経済波及効果（産業部門別）

単位：100万円

		経済波及効果		
			1次波及効果	2次波及効果
1	農林水産業	15,913	13,718	2,194
2	鉱業	244	144	101
3	製造業	38,522	29,694	8,828
4	建設業	1,795	886	909
5	電気・ガス・水道業	9,001	5,316	3,685
6	商業	21,565	11,616	9,949
7	金融・保険業	11,400	5,476	5,924
8	不動産業	17,951	2,294	15,657
9	運輸・通信業	32,214	24,789	7,426
10	サービス業	104,235	80,223	24,012
11	公務	576	230	346
合計		253,418	174,386	79,031

図表 経済波及効果推計の考え方

